

令和6（2024）年度熊本県内における血液製剤の使用適正化に関する アンケート調査報告

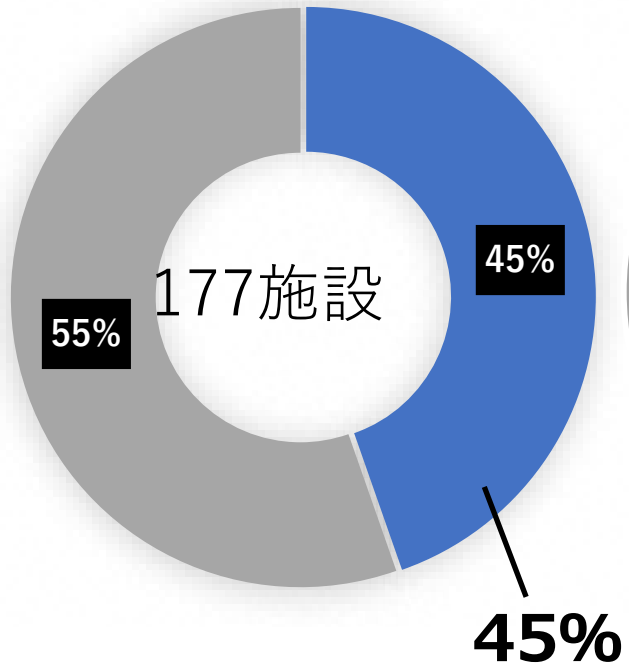
- 1 【調査方法】：過去2年間に血液製剤が供給された265施設に郵送または持参した。
- 2 【調査期間】：令和6年8月15日～9月30日
- 3 【回収率】：67.2%（178/265）
- 4 【供給占有率】：県内の赤血球製剤使用量の96.7%を占める施設から回答を得た。

回答があった178施設を病床数毎に区切り評価を行った。

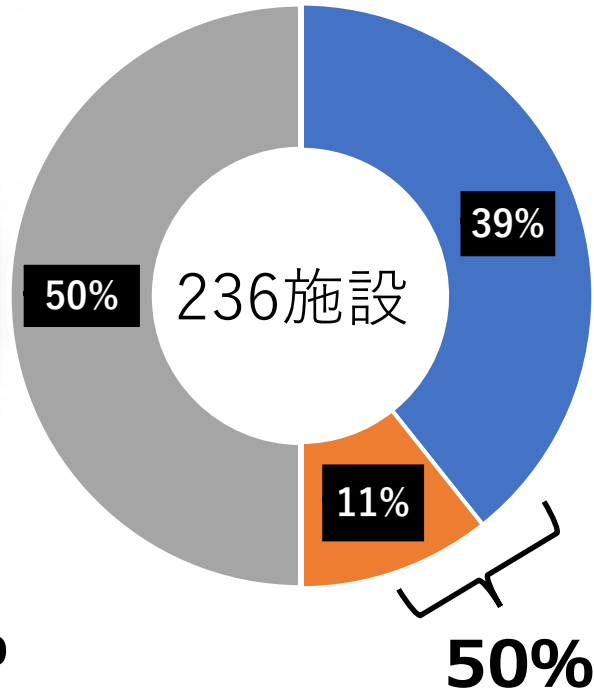
病床数	発送数	回収数	回収率
300床以上	17	17	100%
200～299床	16	13	81.3%
100～199床	56	42	75.0%
20～99床	65	43	66.2%
20床未満	111	63	56.8%
全体	265	178	67.2%

Q1:輸血療法委員会がありますか

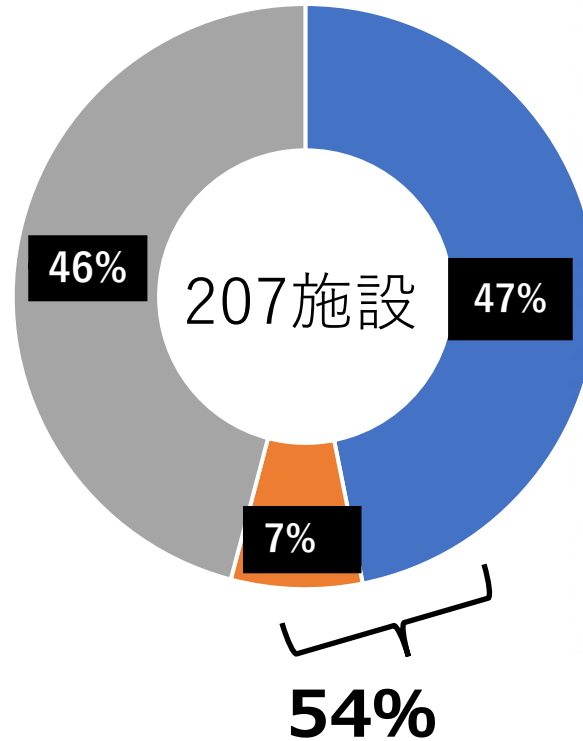
2018年



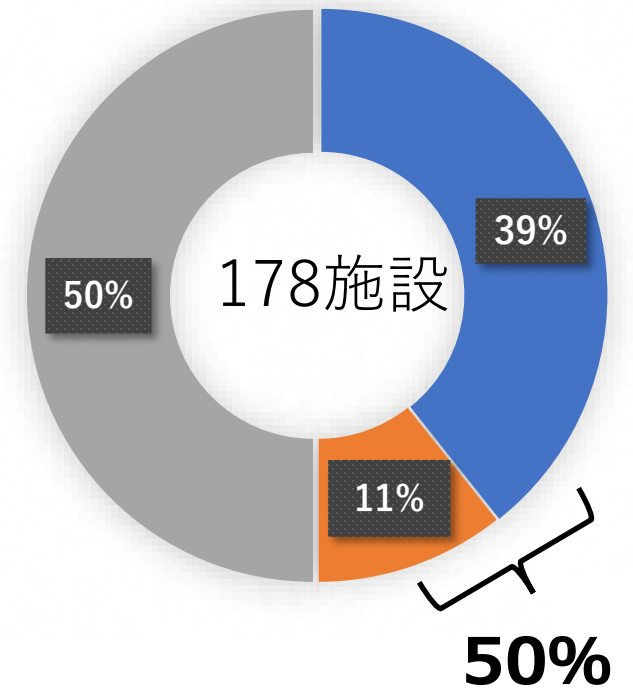
2020年



2022年



2024年



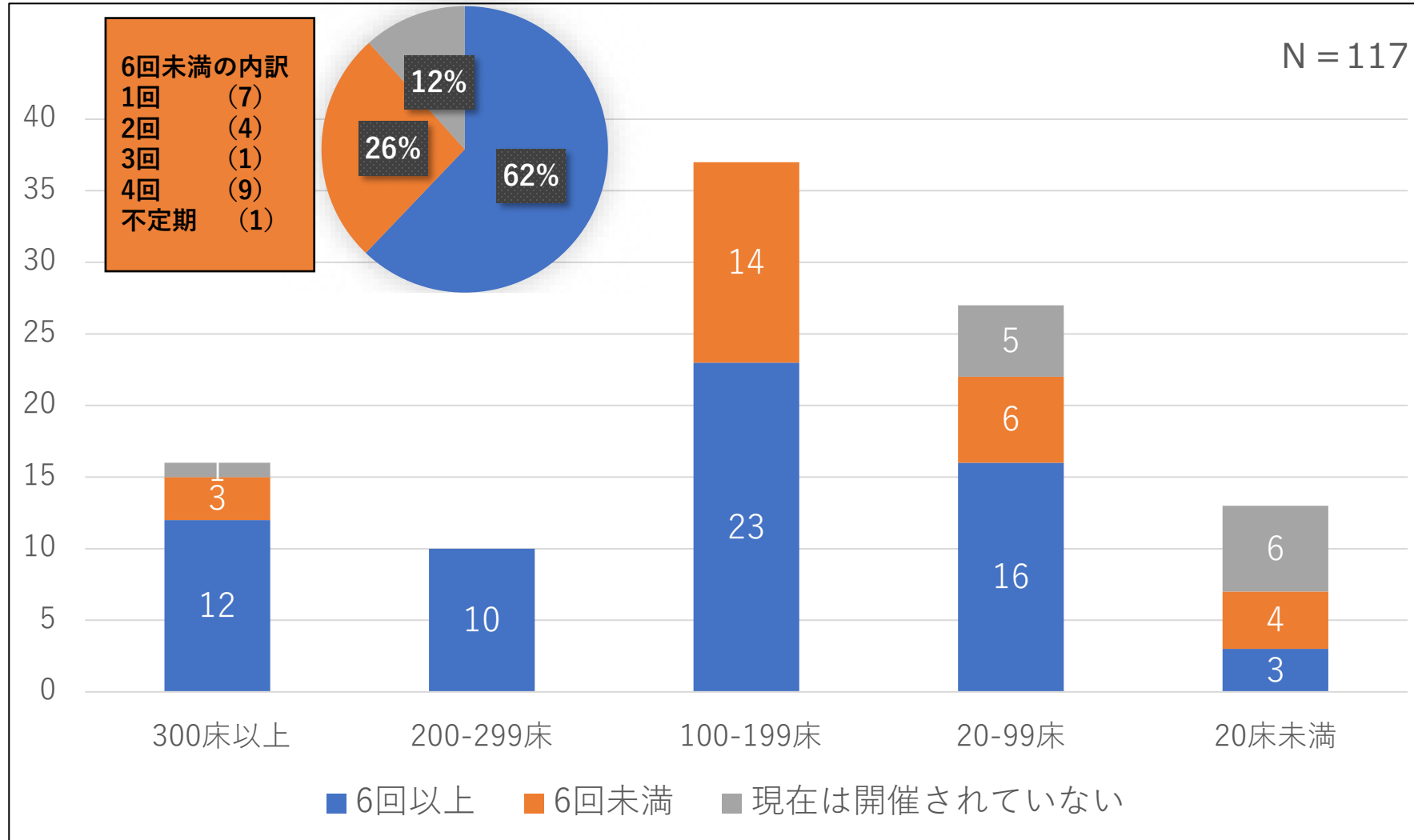
2019年12月～
輸血療法委員会設置支援
DVD配布スタート

- はい
- 同様の機能もつ委員会あり
- いいえ

2020年以降現在までの新規設置数：31施設

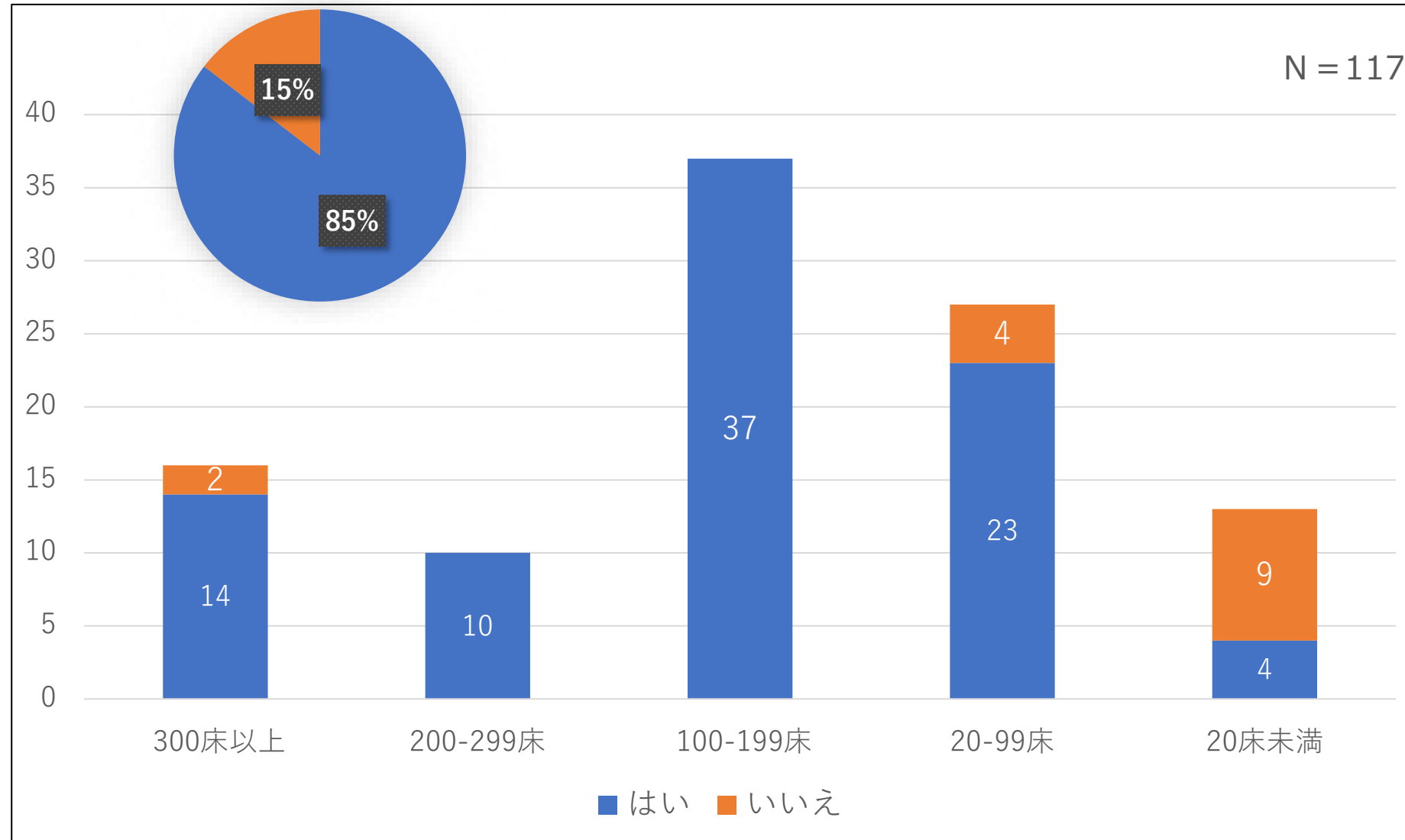
Q2:輸血療法委員会の開催回数(年)

(施設数)



Q3:輸血療法委員会の設置要綱はありますか

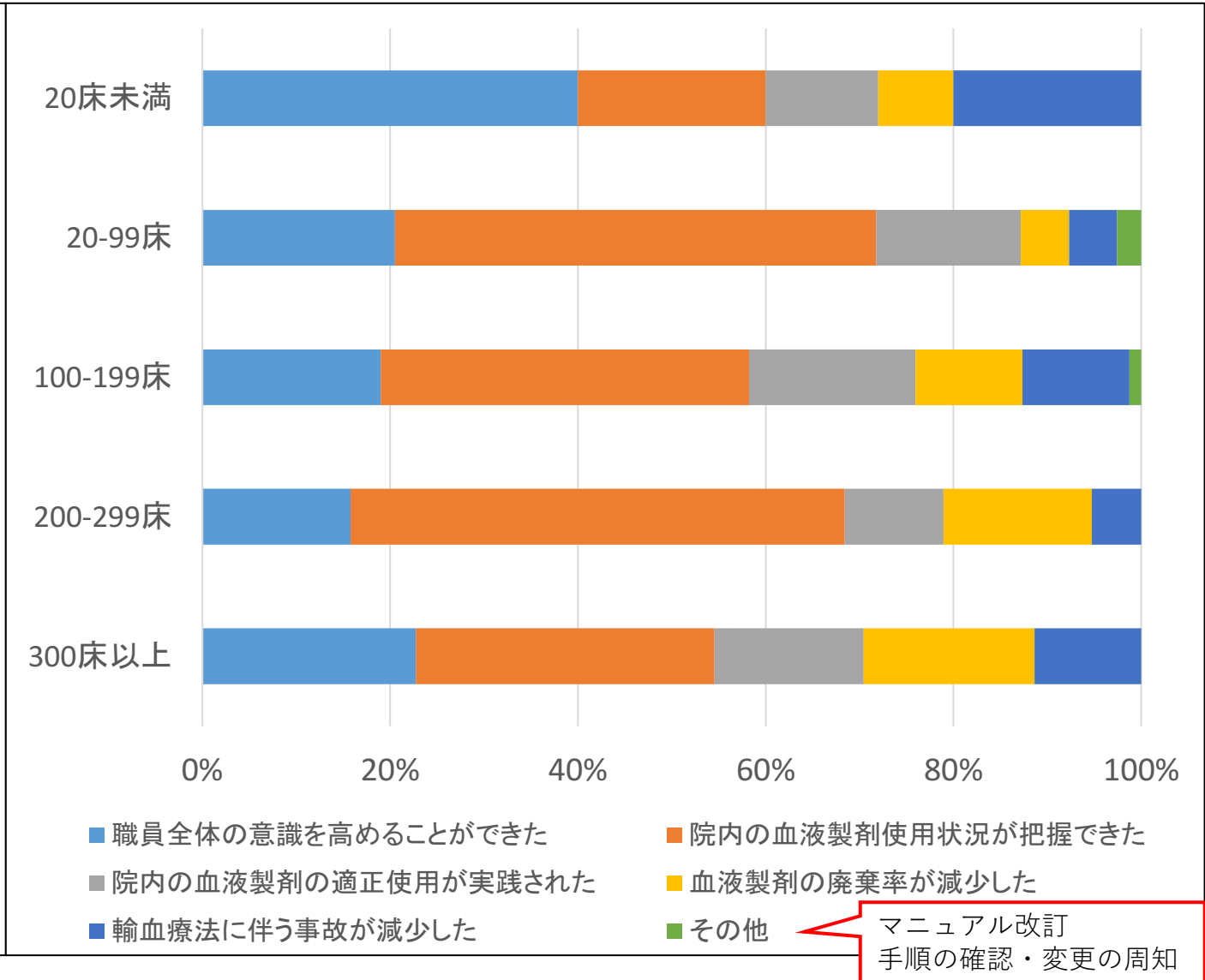
(施設数)



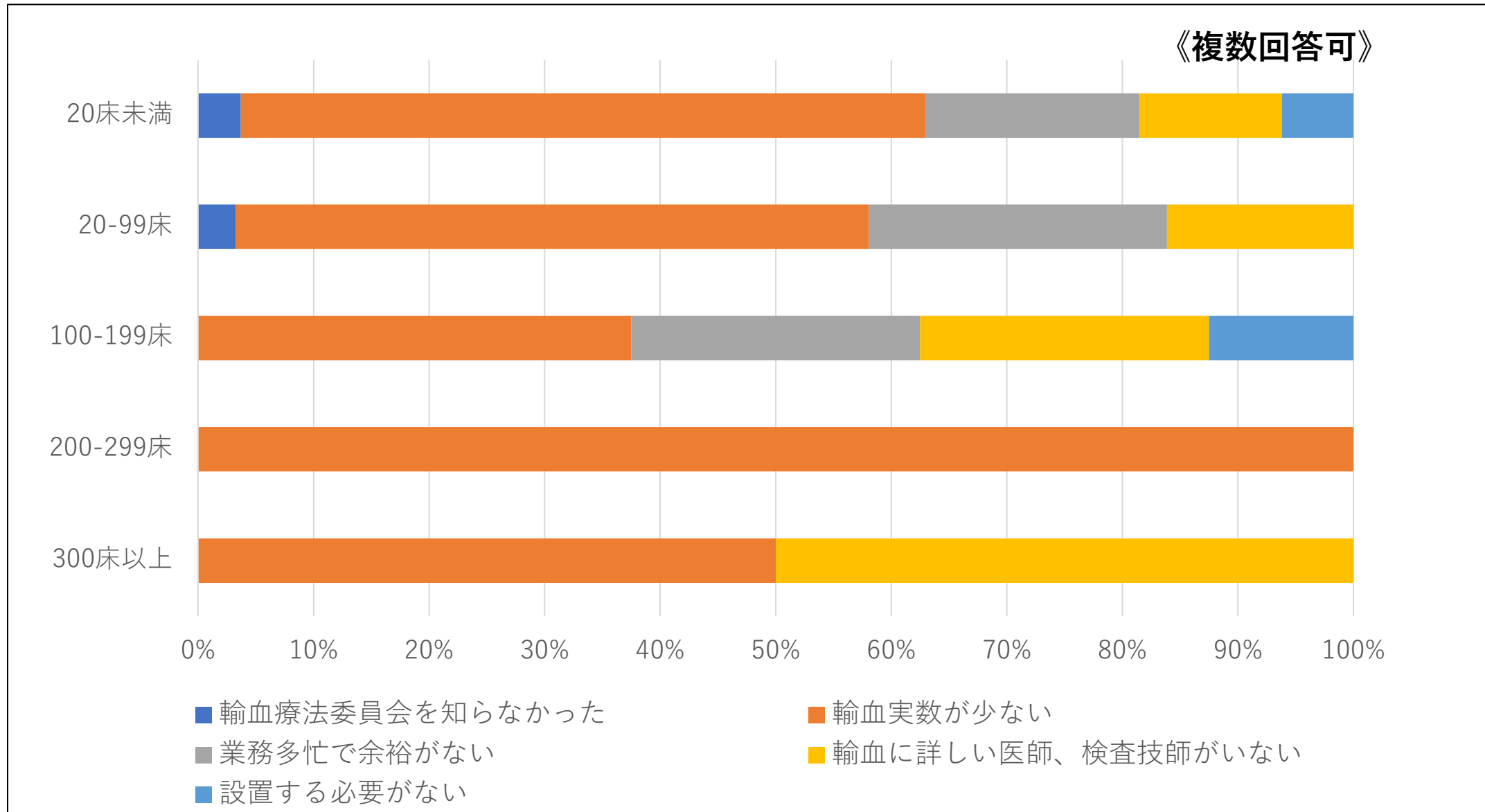
Q4:輸血療法委員会での検討内容

Q5:どのような効果がありましたか

《複数回答可》

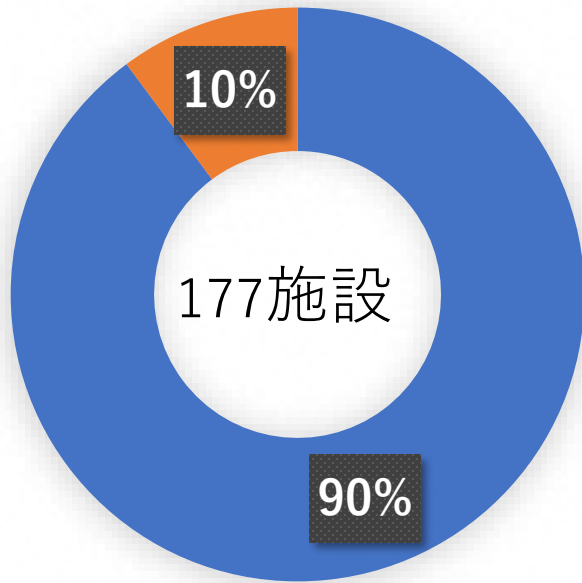


Q6:輸血療法委員会を設置していない理由

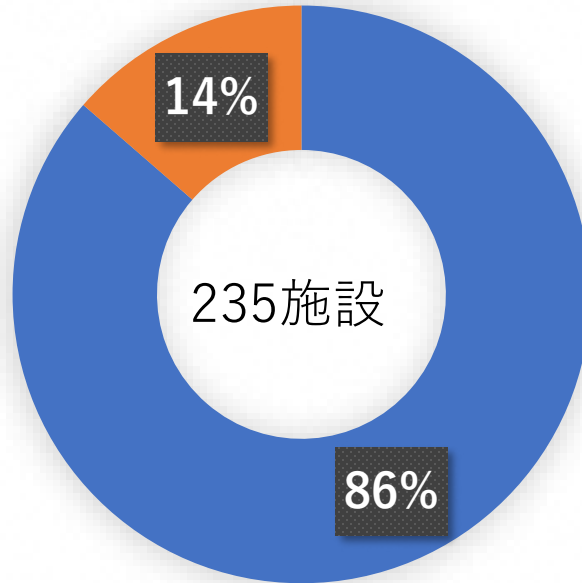


Q7: 「血液製剤の使用指針」 および 「輸血療法の実施に関する指針」 の改定について知っていますか

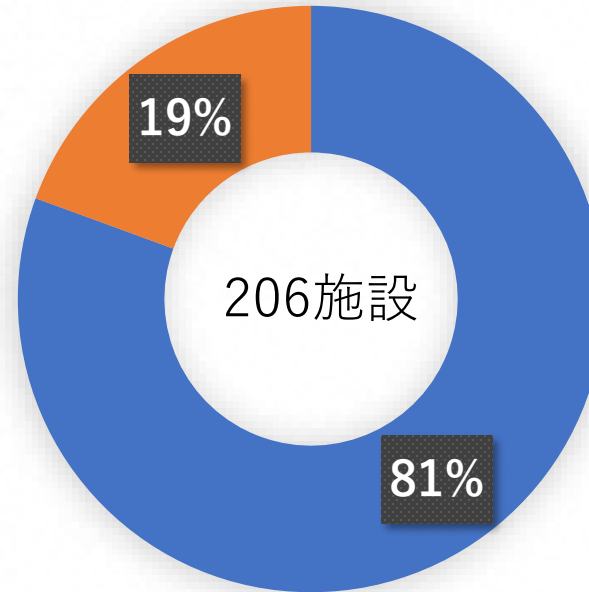
2018年



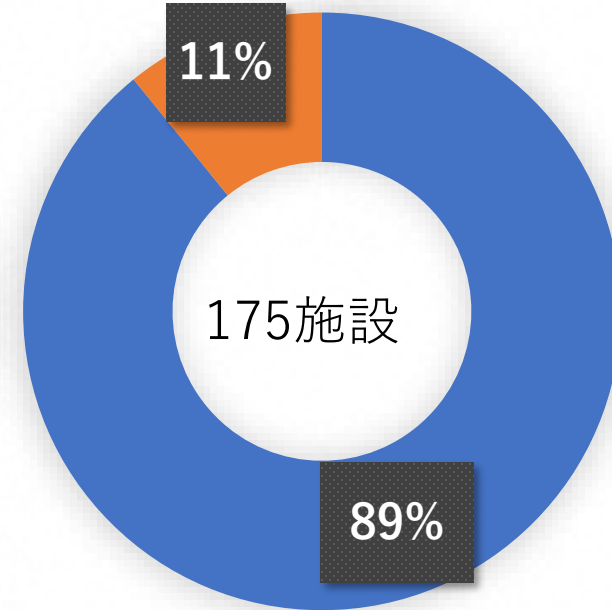
2020年



2022年



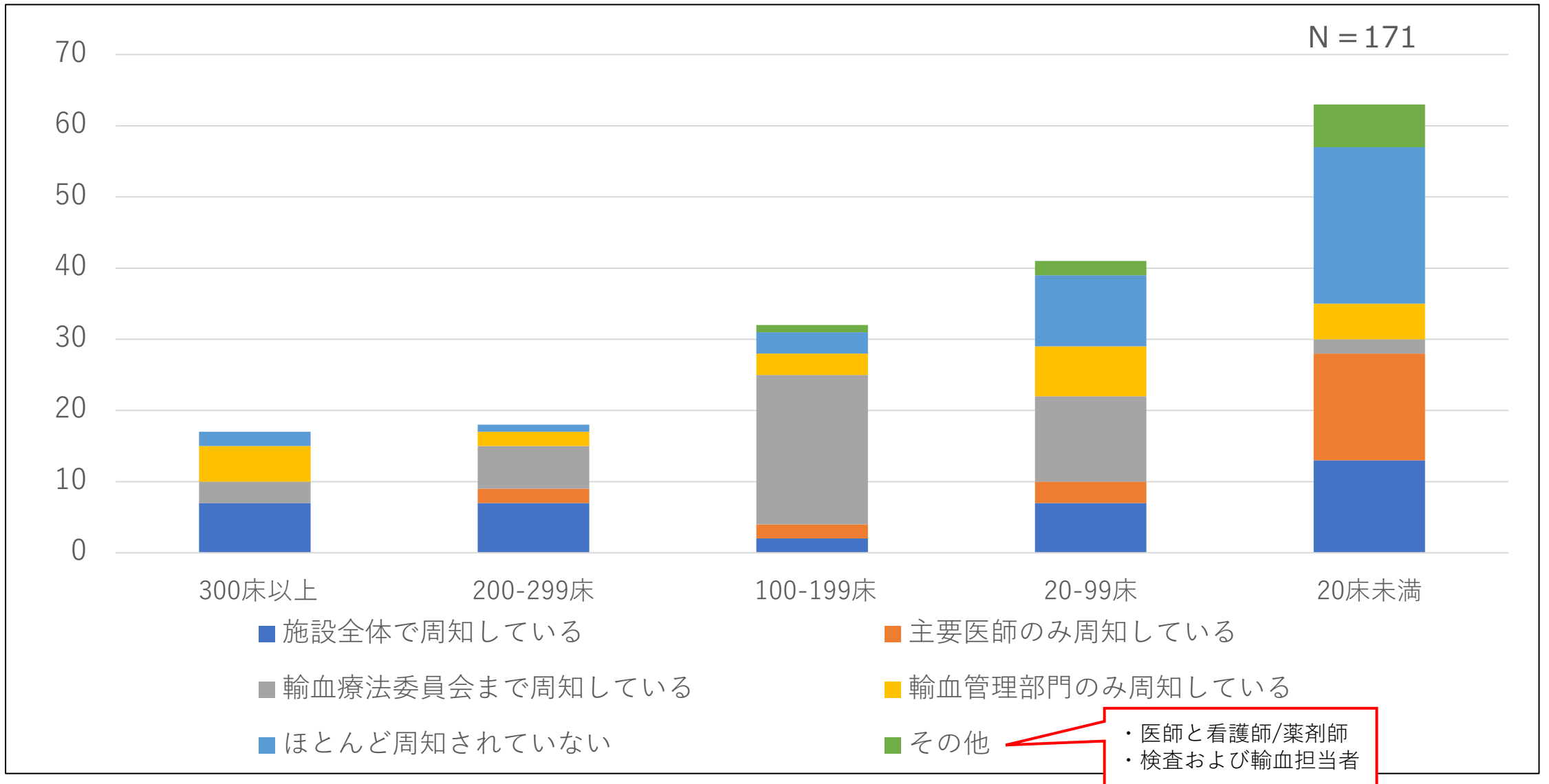
2024年



■ 知っている ■ 知らない

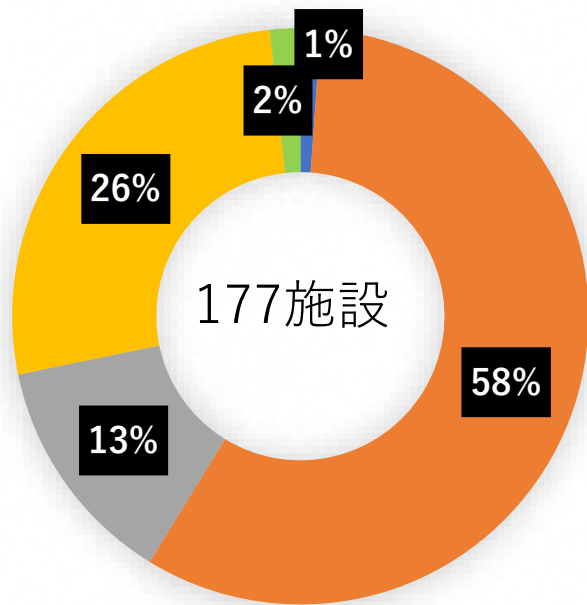
Q8:指針の周知状況について

(施設数)

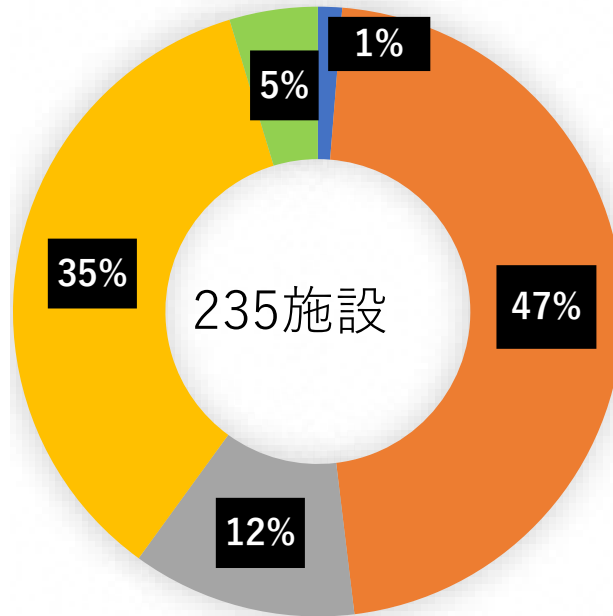


Q9:輸血用血液製剤の管理部門はどこですか

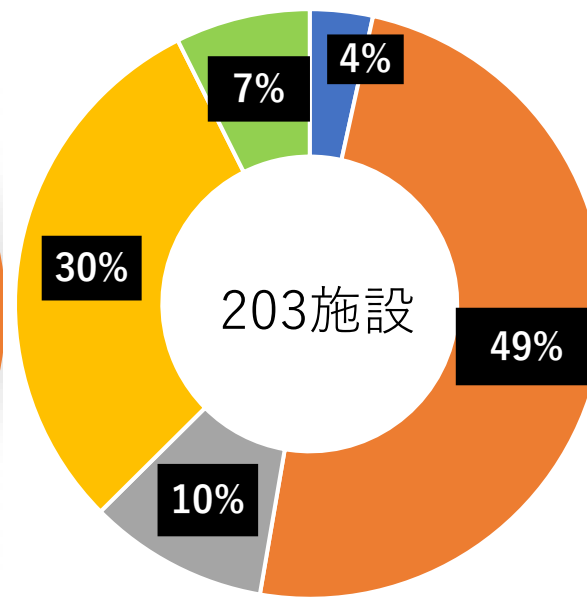
2018年



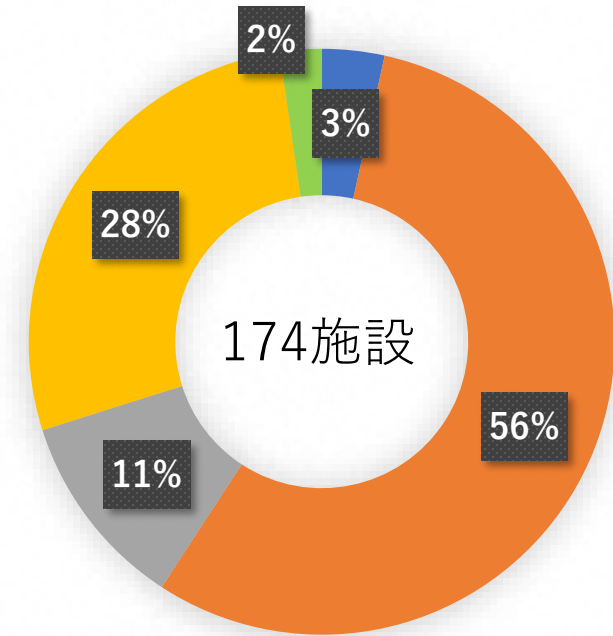
2020年



2022年



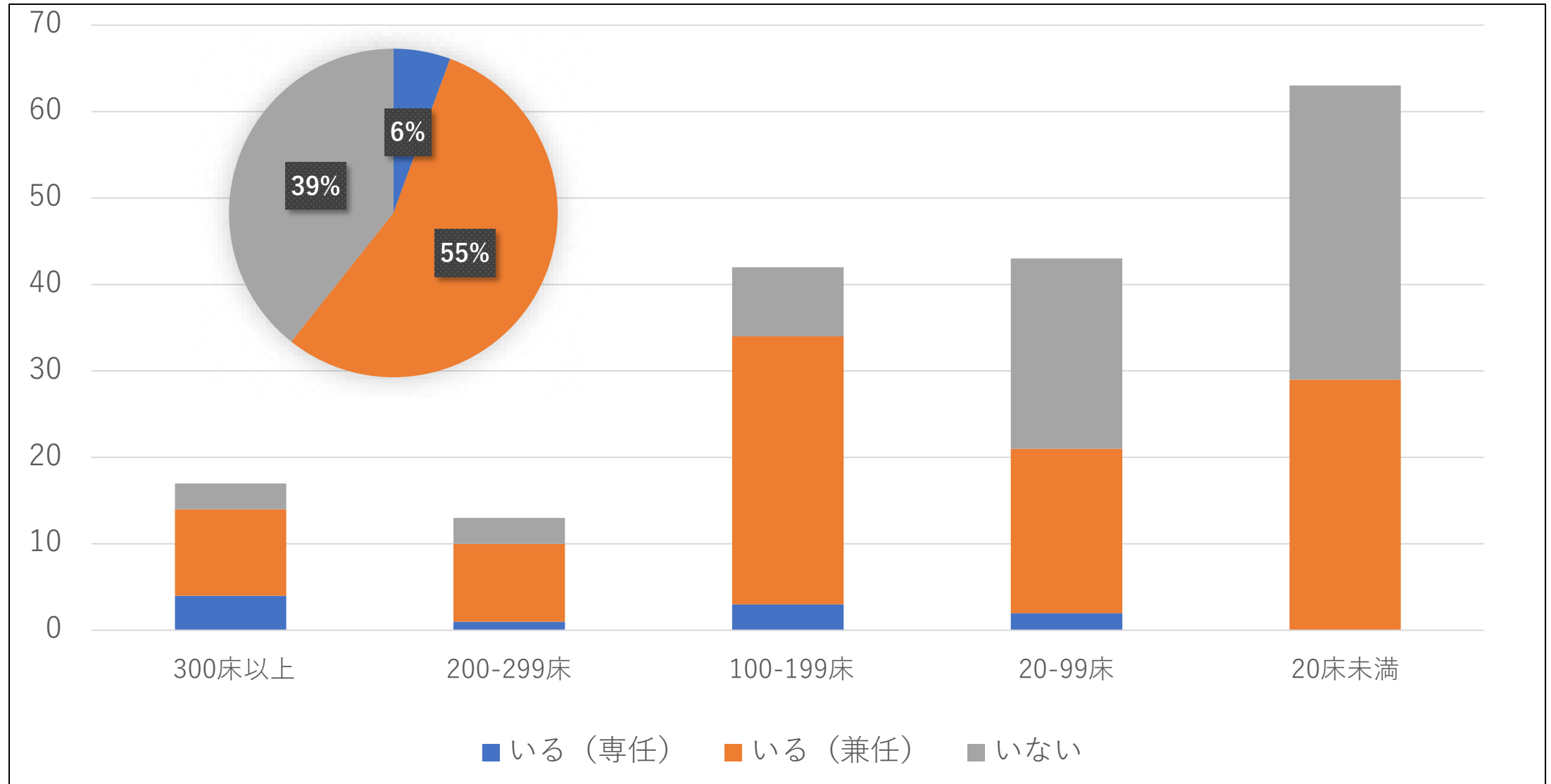
2024年



- 輸血部 (輸血室)
- 検査部
- 薬剤部 (薬局)
- 看護部
- その他

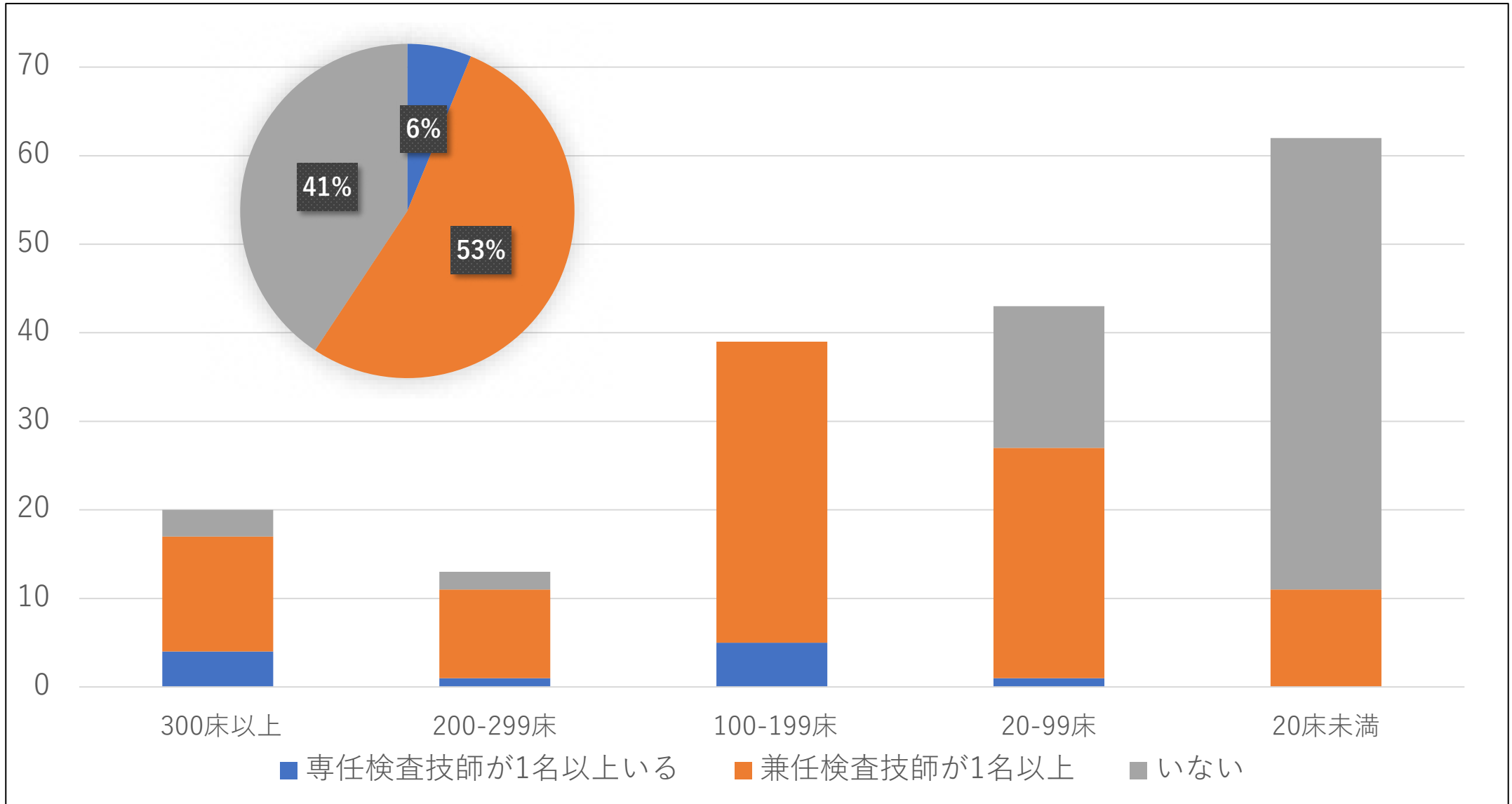
Q10:輸血責任医師はいますか N = 178

(施設数)



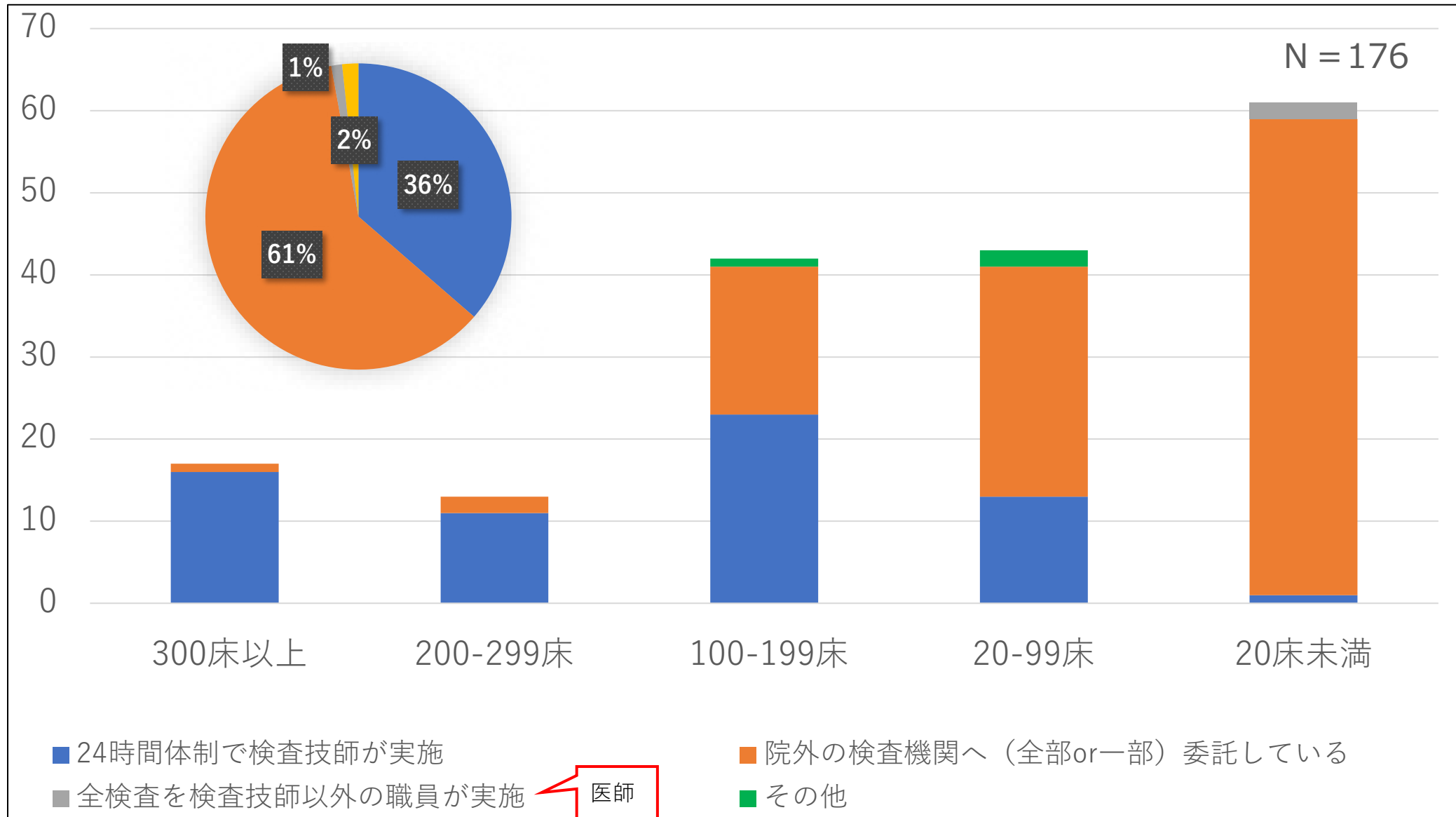
Q11:輸血部門における臨床検査技師の配置 N = 177

(施設数)



Q12:輸血検査業務の体制について

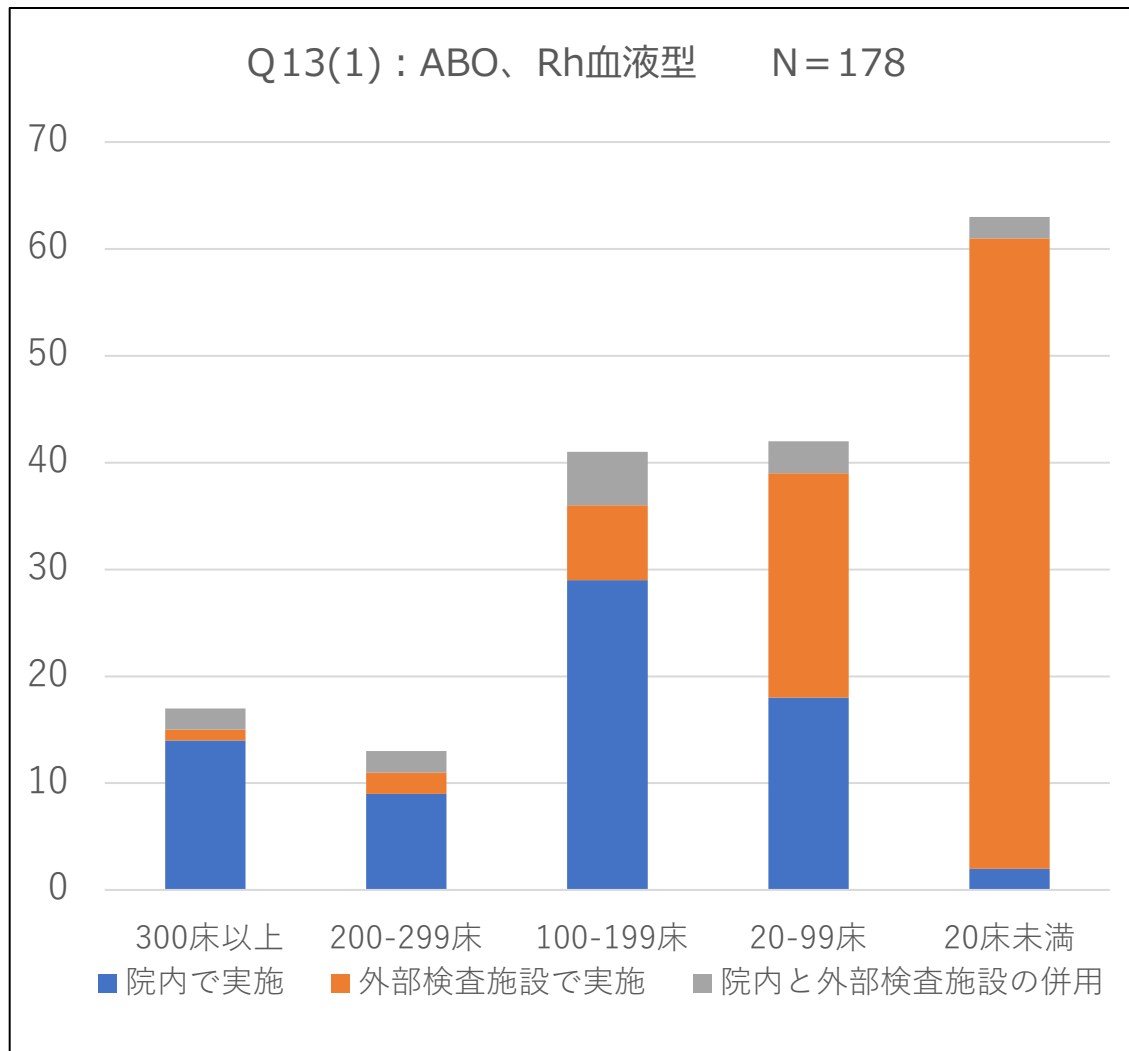
(施設数)



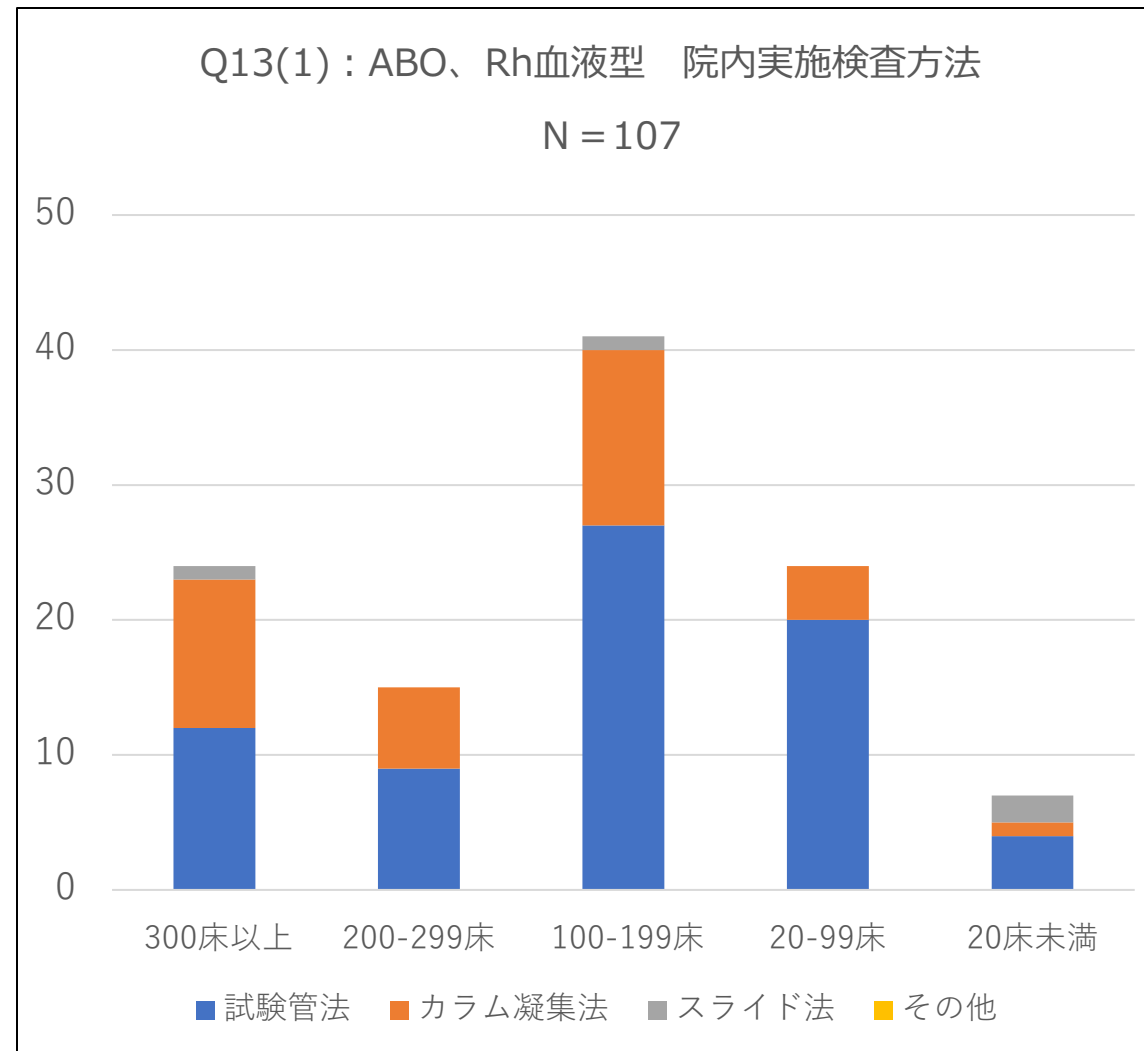
Q13:輸血検査の実施項目・検査実施施設・検査法について

Q13(1) ABO及びRh血液型検査

(施設数)



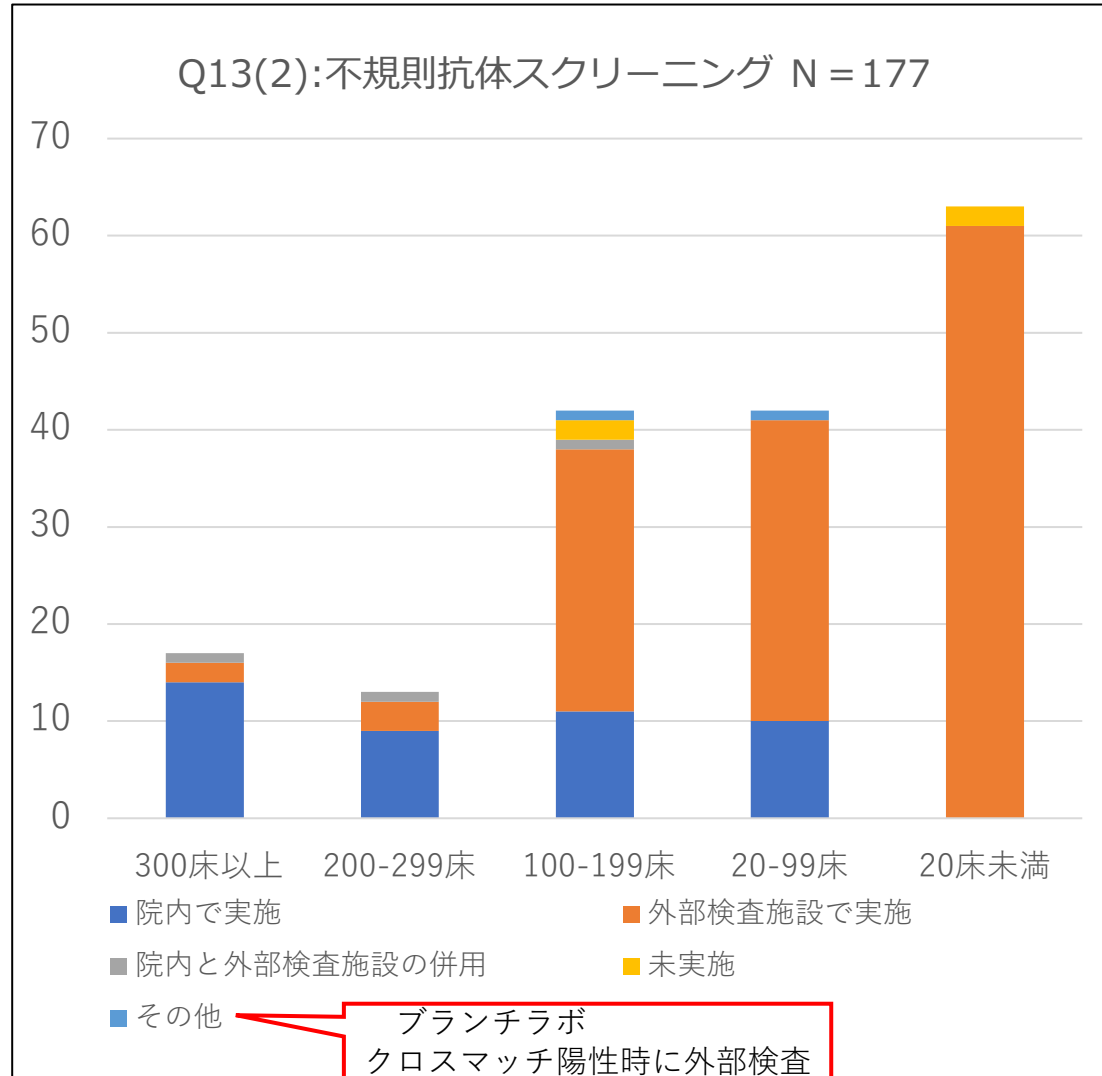
(施設数)



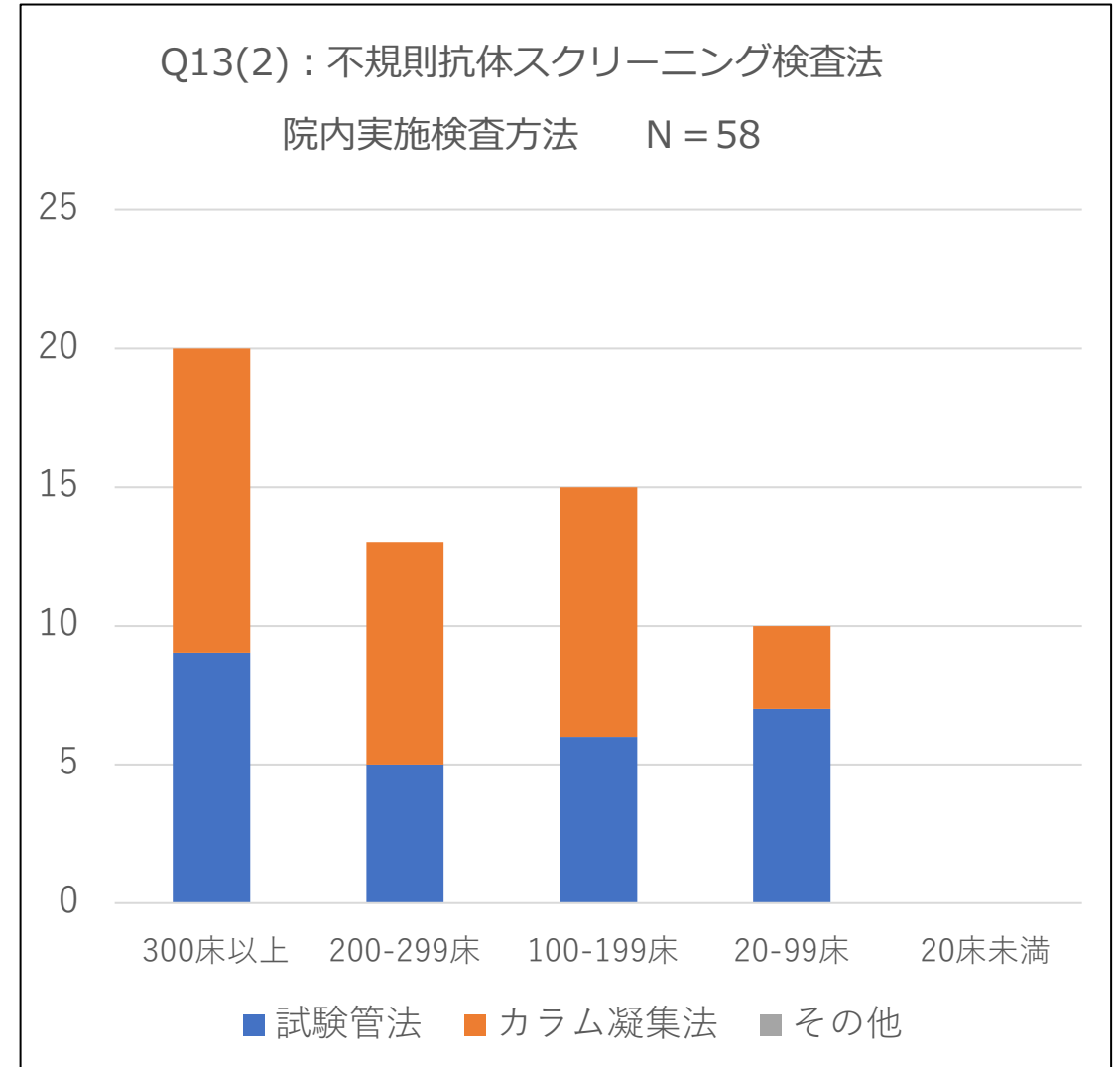
Q13:輸血検査の実施項目・検査実施施設・検査法について

Q13 (2) 不規則抗体スクリーニング

(施設数)



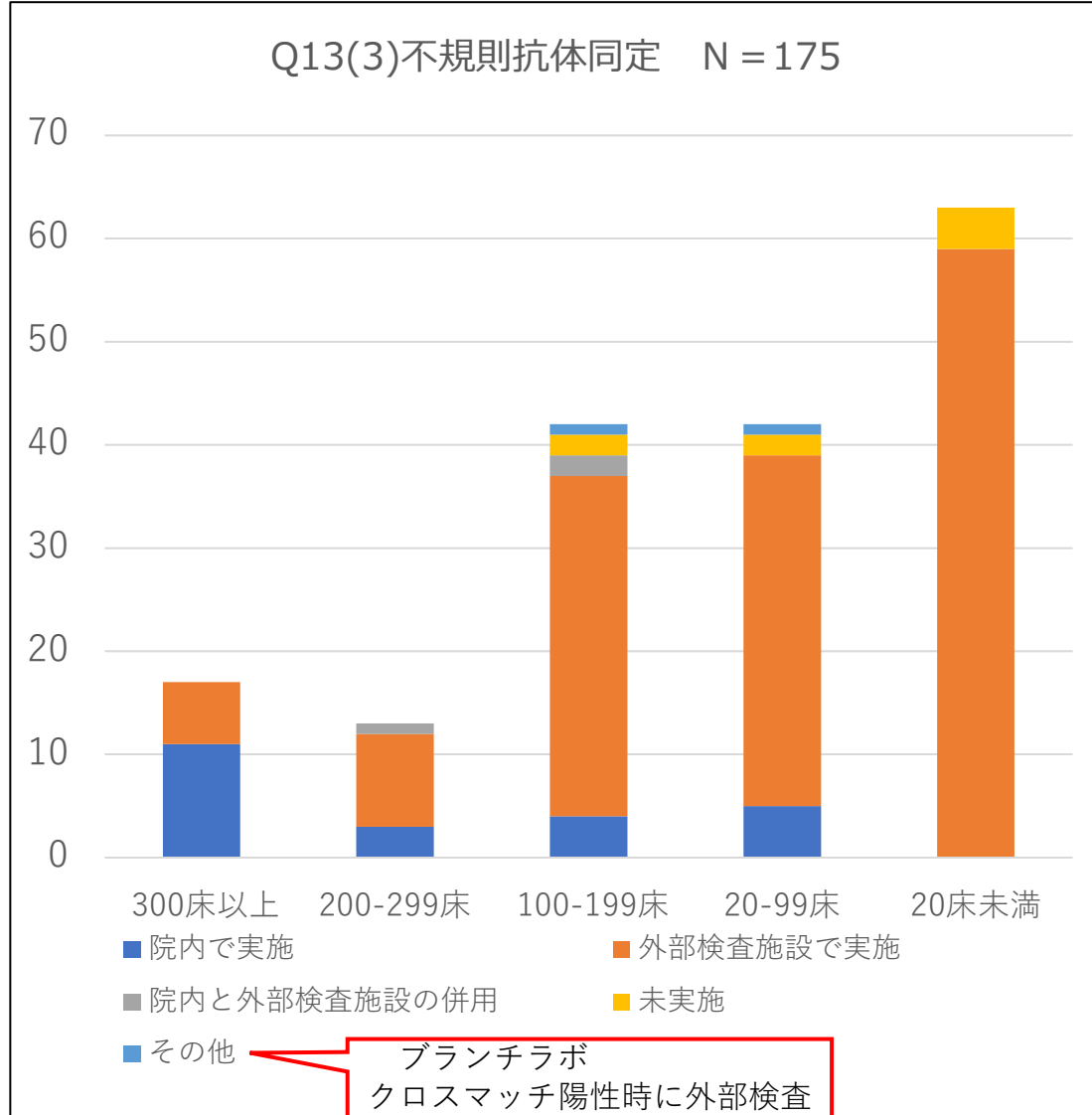
(施設数)



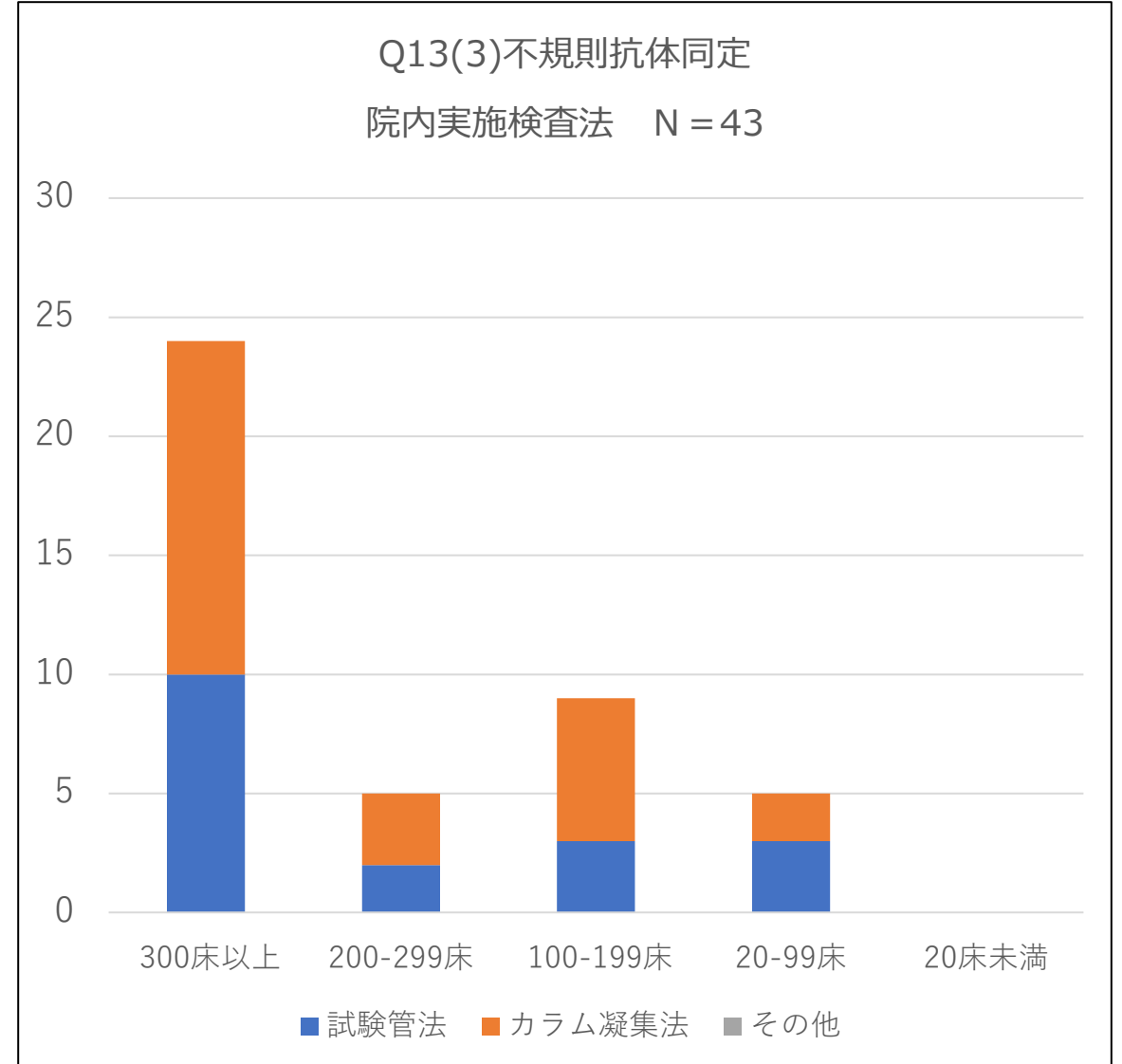
Q13:輸血検査の実施項目・検査実施施設・検査法について

Q13(3) 不規則抗体同定検査

(施設数)



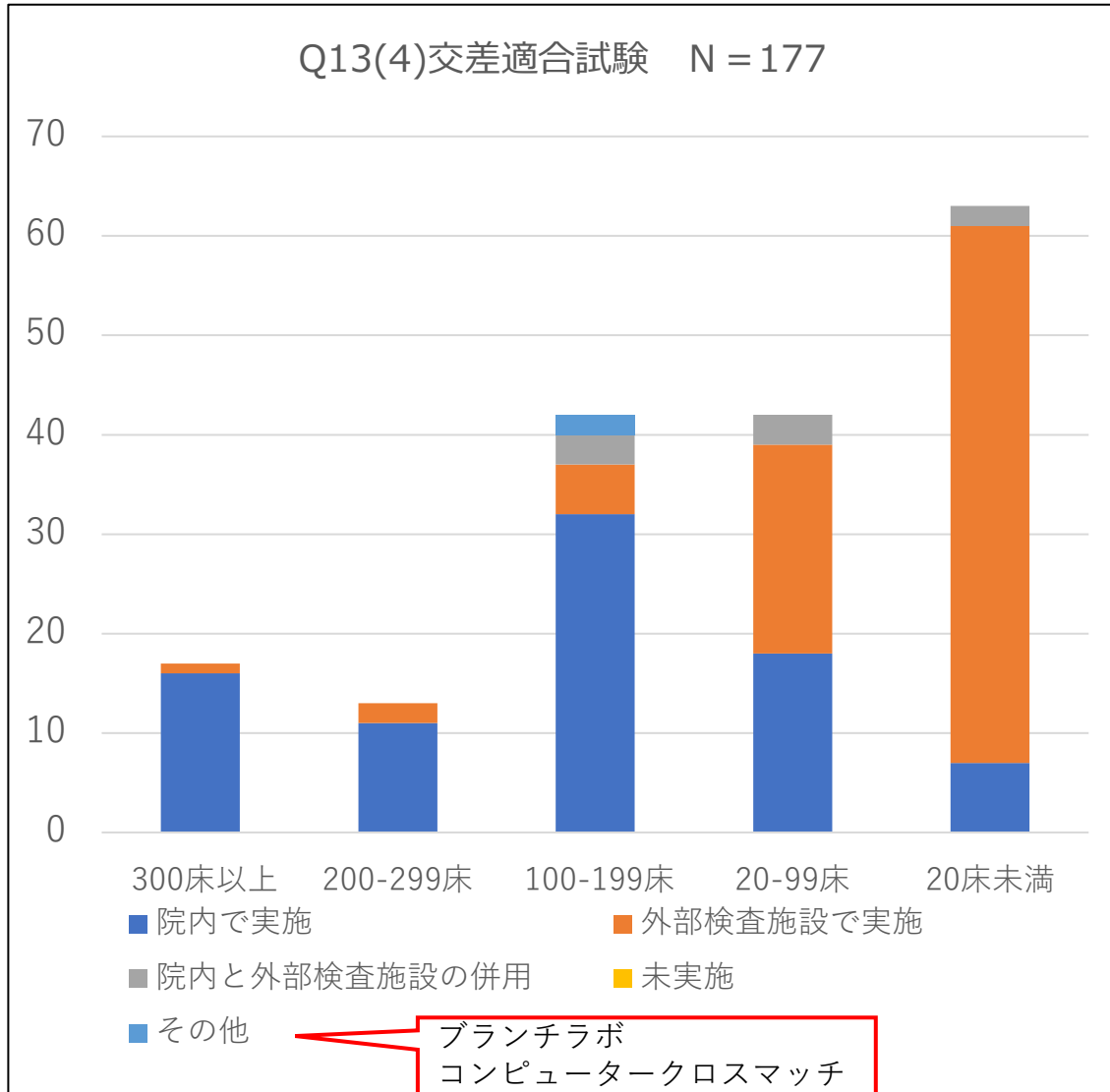
(施設数)



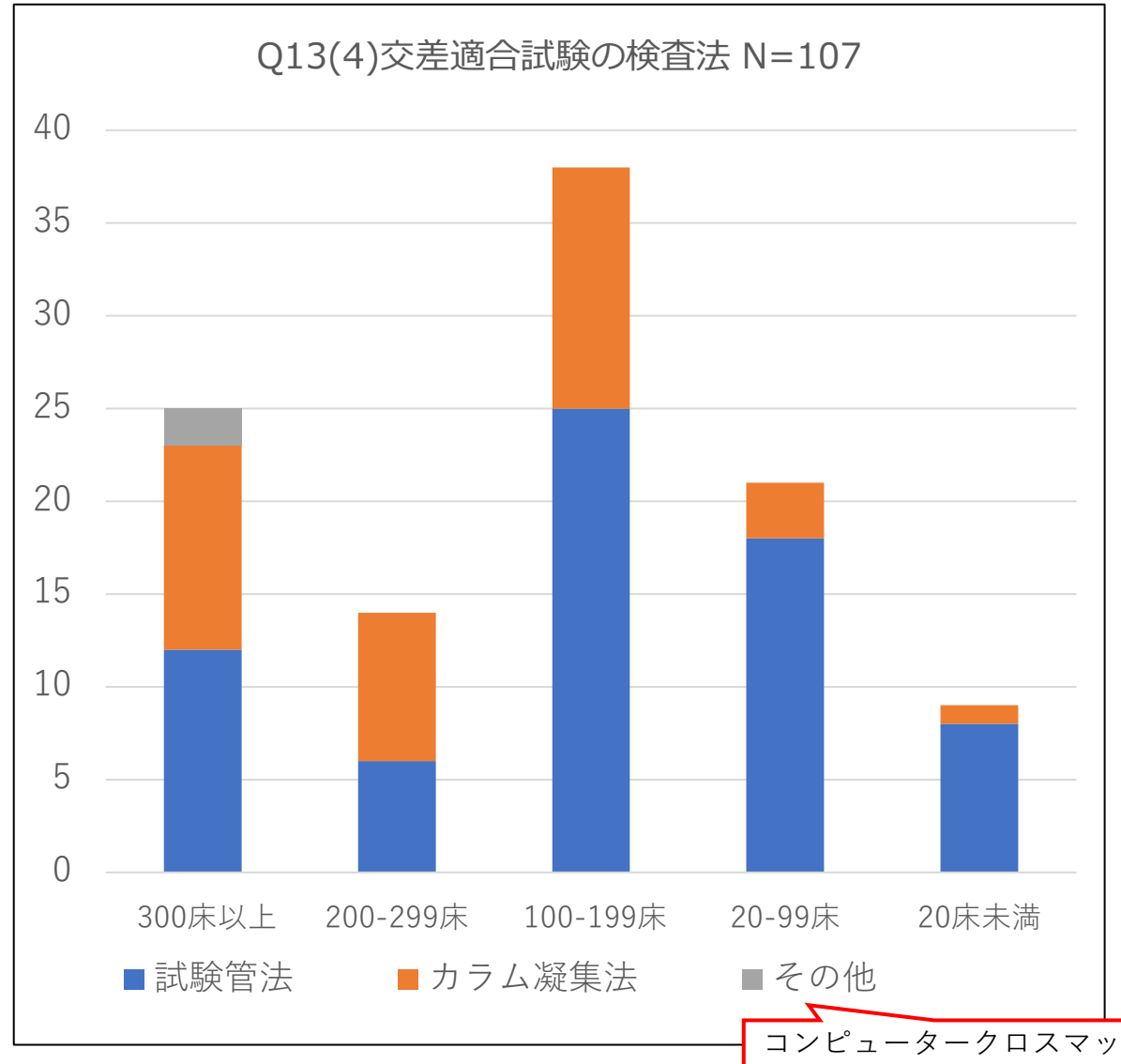
Q13:輸血検査の実施項目・検査実施施設・検査法について

Q13(4) 交差適合試験

(施設数)

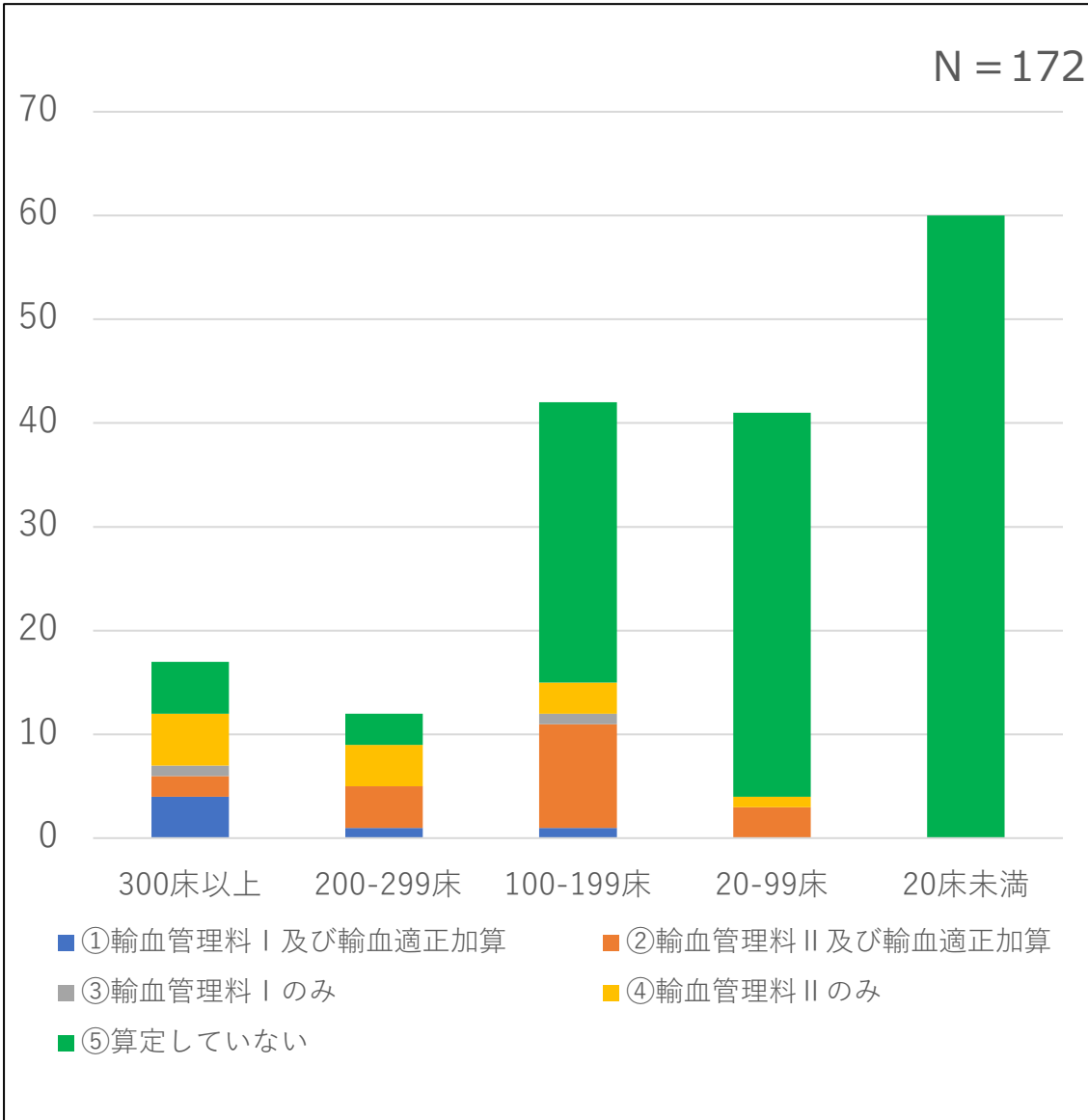


(施設数)

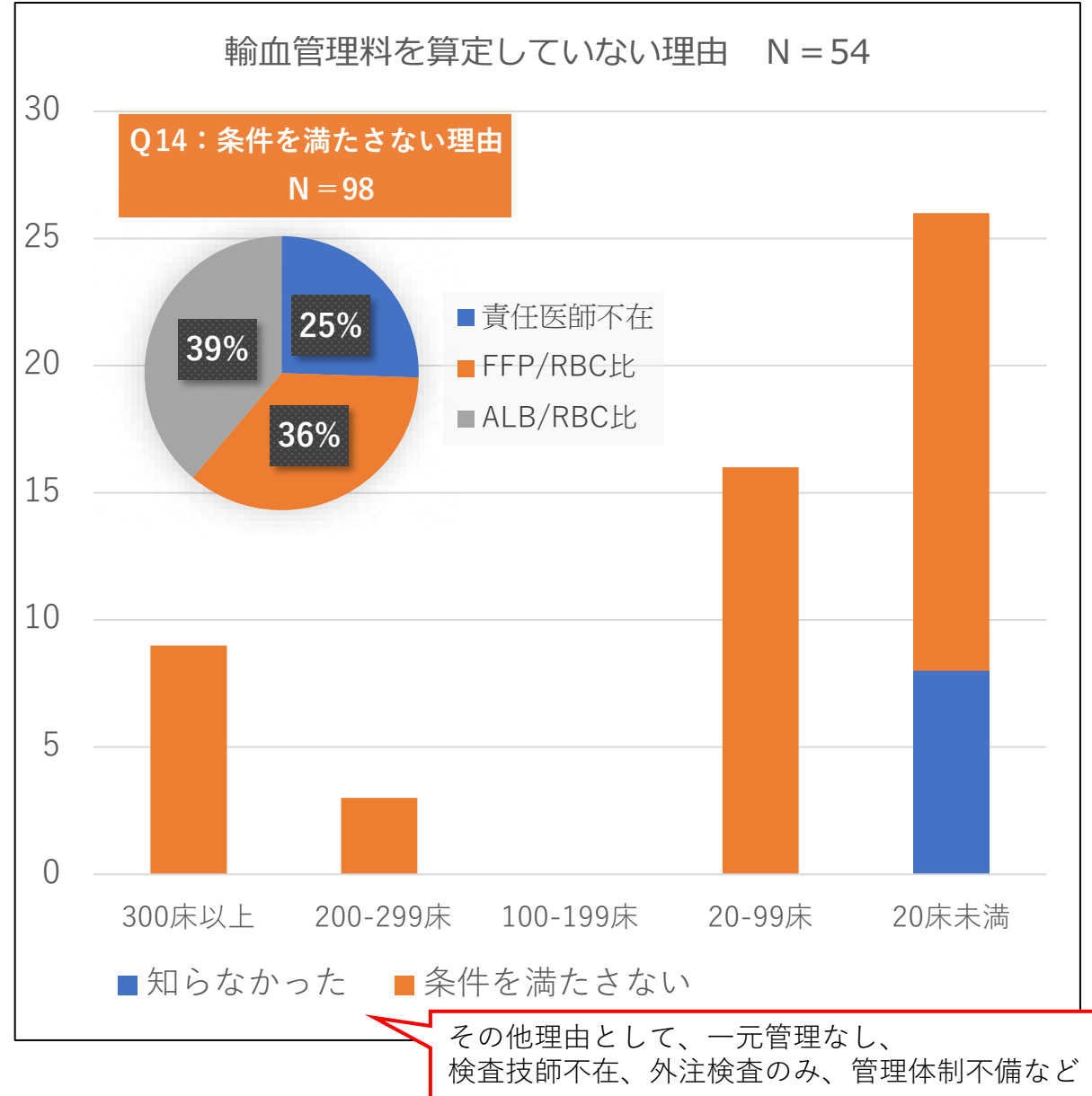


Q14:輸血管管理料を算定していますか

(施設数)

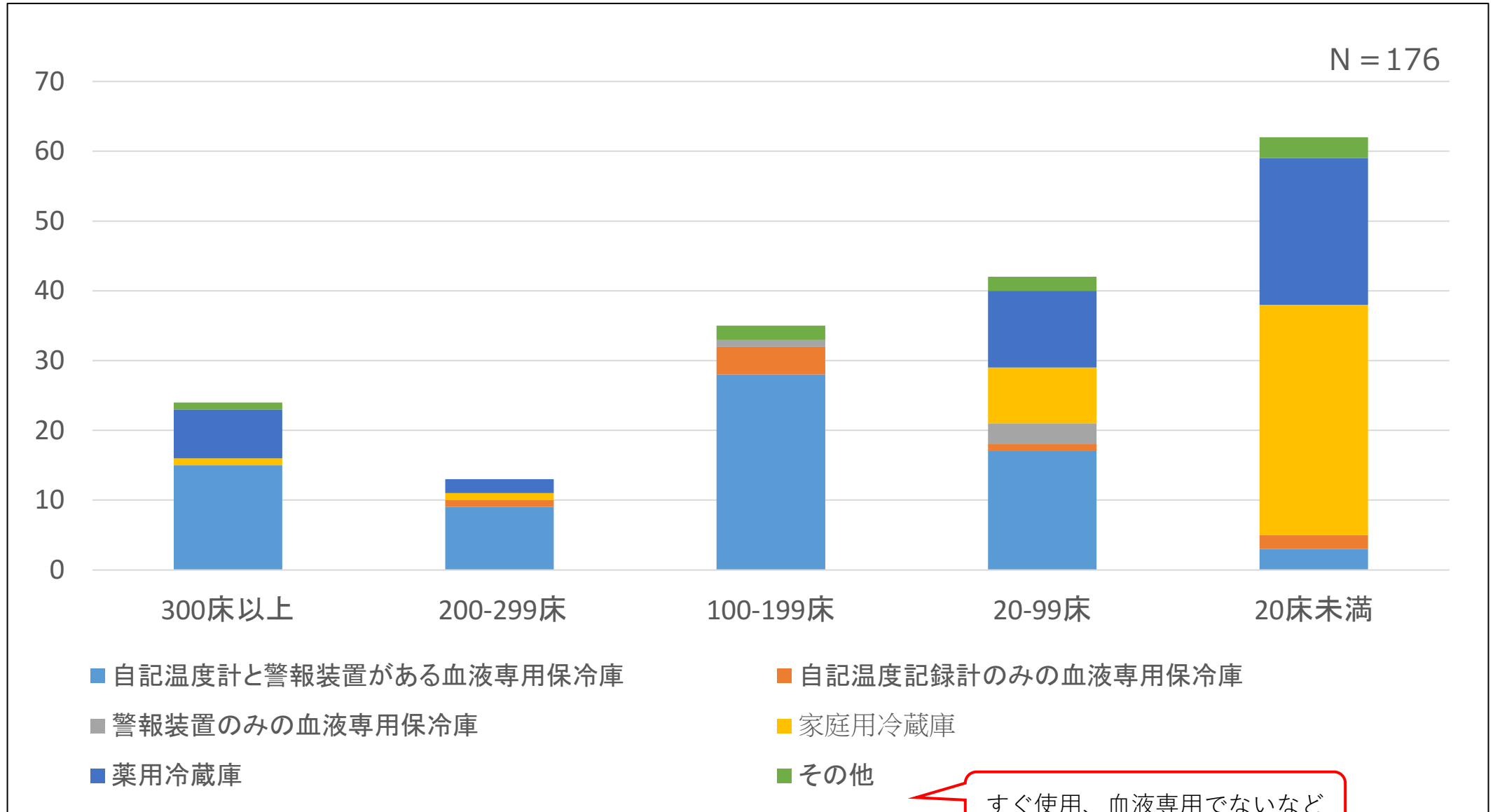


(施設数)



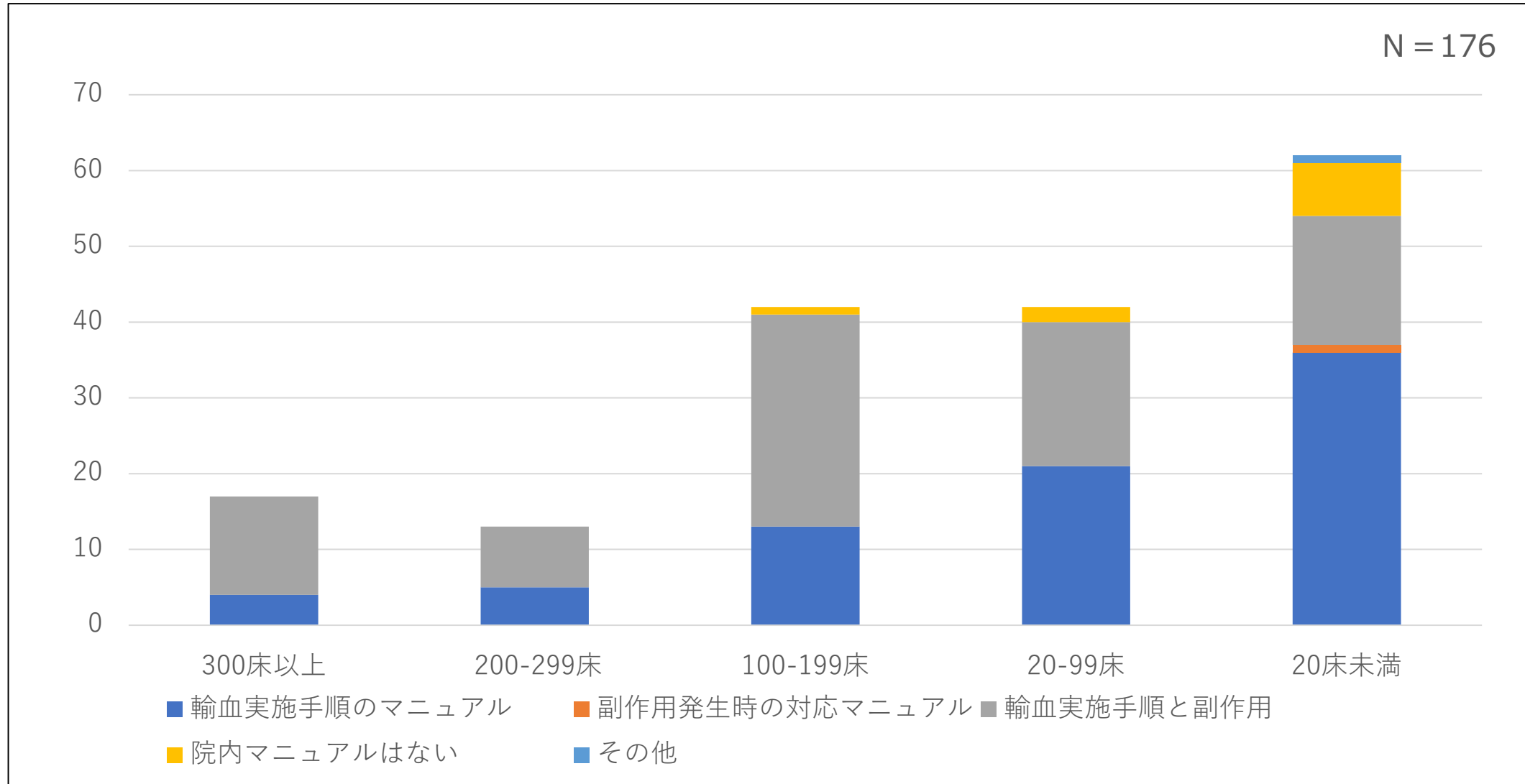
(施設数)

Q15:輸血用血液製剤の保管設備について



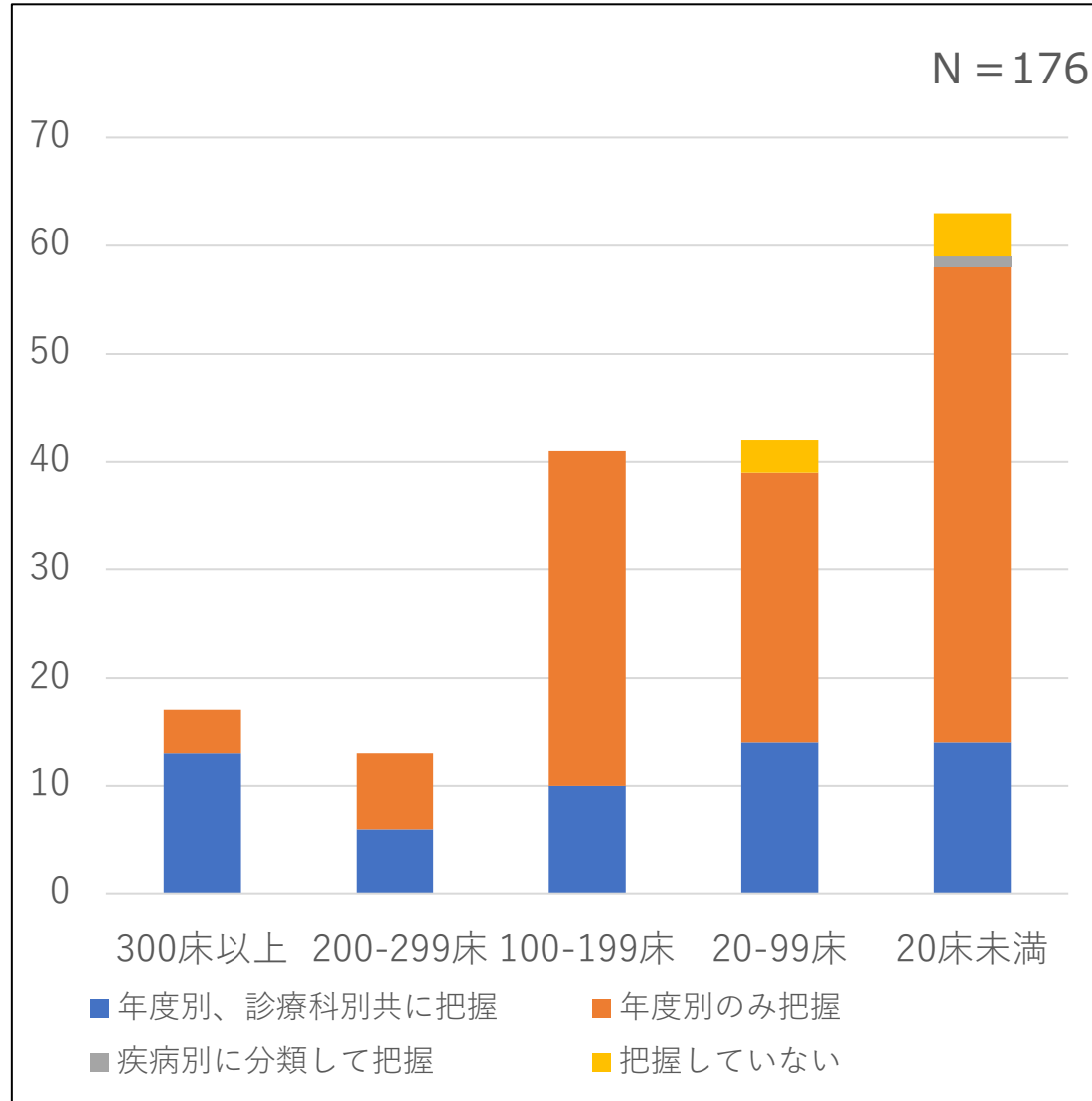
Q16:輸血療法に関する院内のマニュアルはどのようなものがありますか。

(施設数)



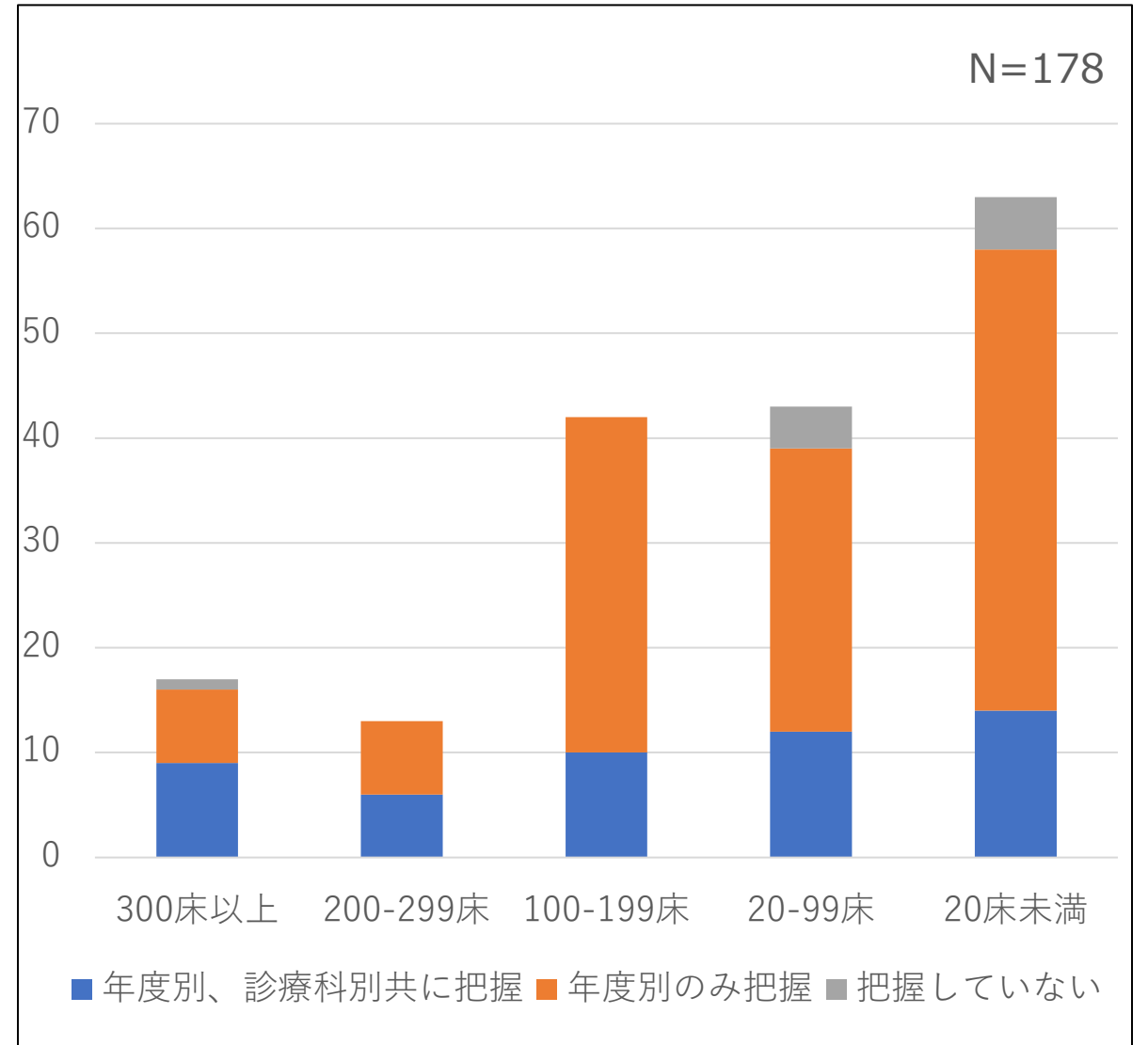
Q17:血液製剤の使用量を把握していますか

(施設数)



Q18:血液製剤の廃棄を把握していますか

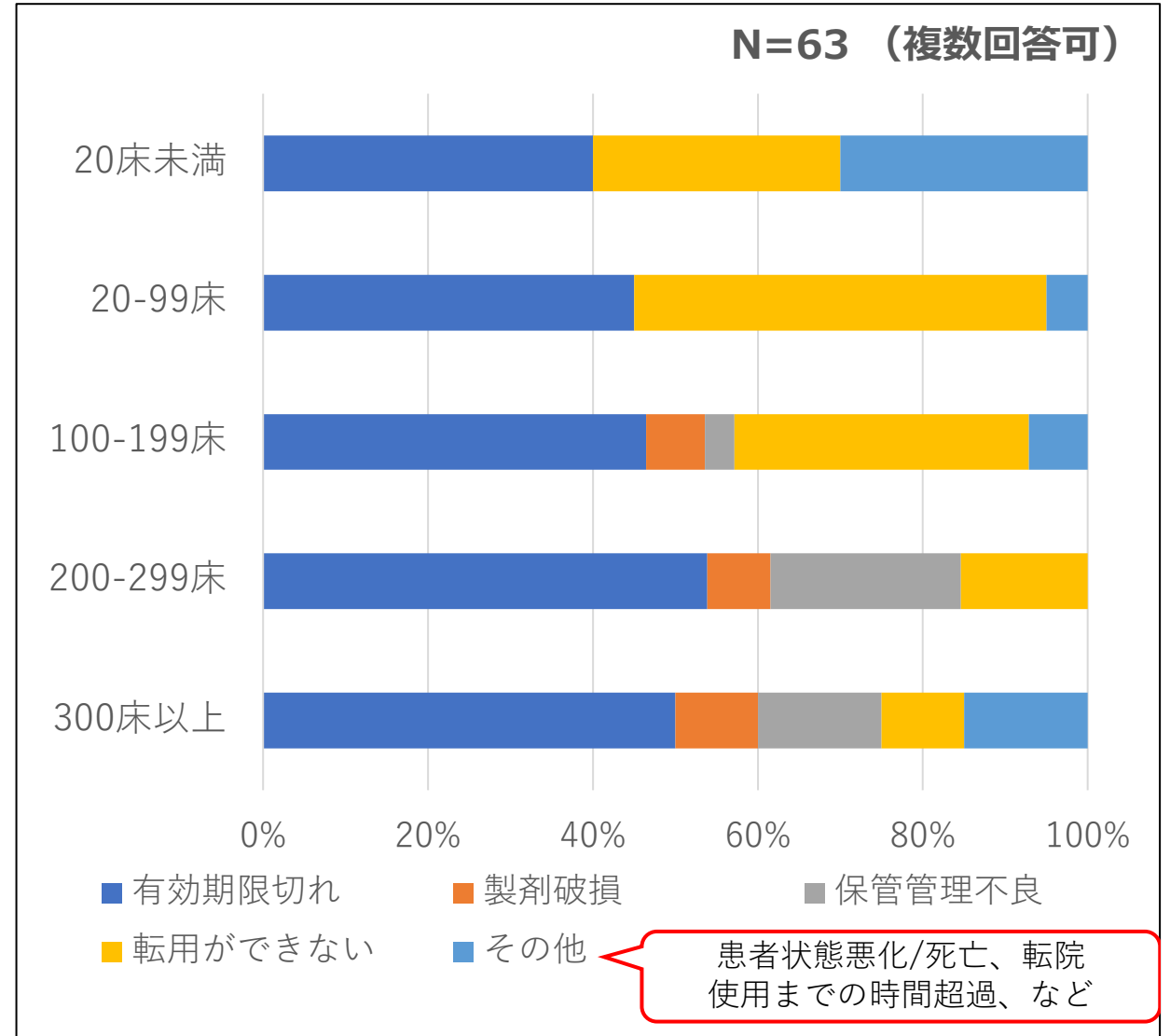
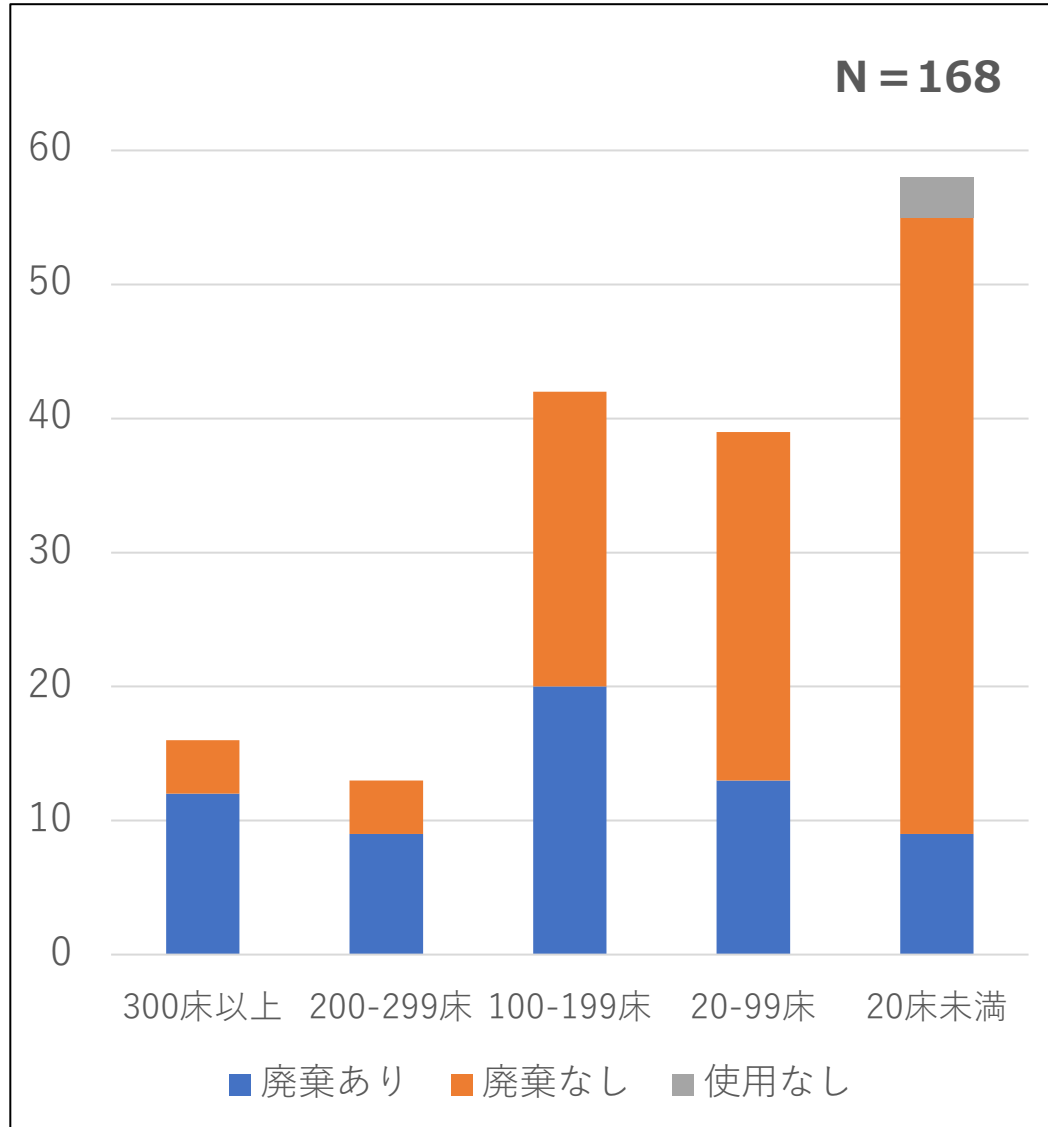
(施設数)



Q19:令和5年度血液製剤の廃棄について

Q19 (1) 赤血球製剤

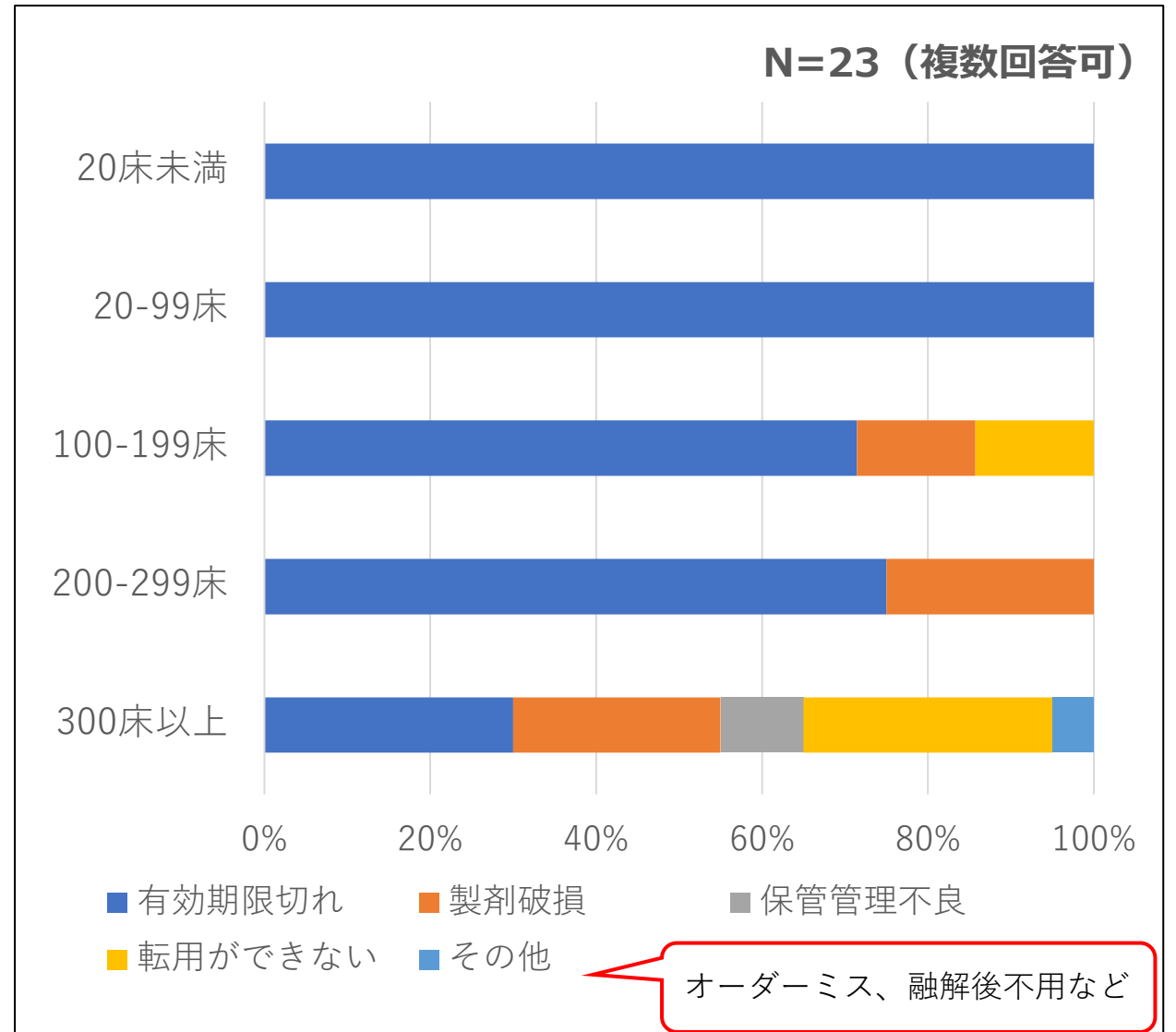
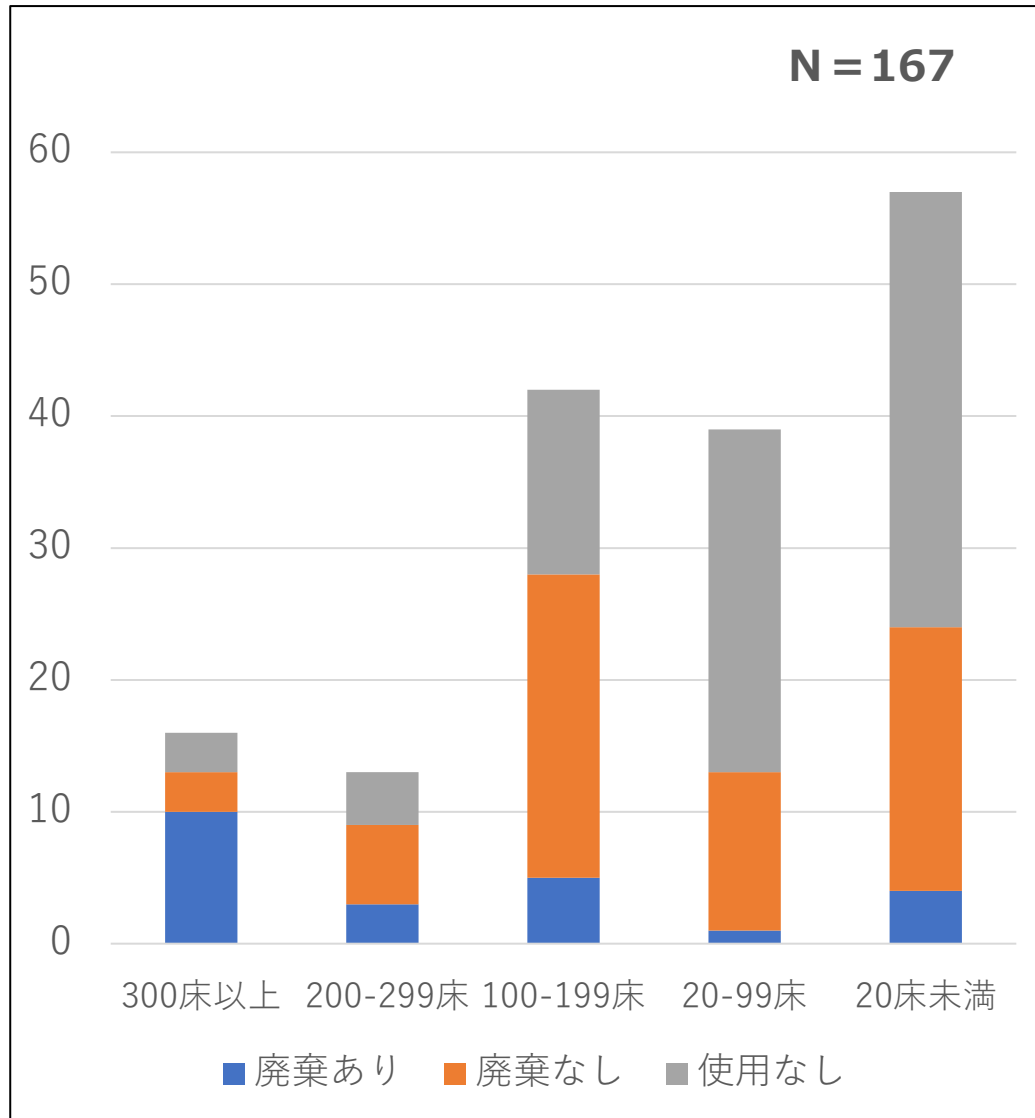
(施設数)



Q19:令和5年度血液製剤の廃棄について

Q19 (2) 血漿製剤

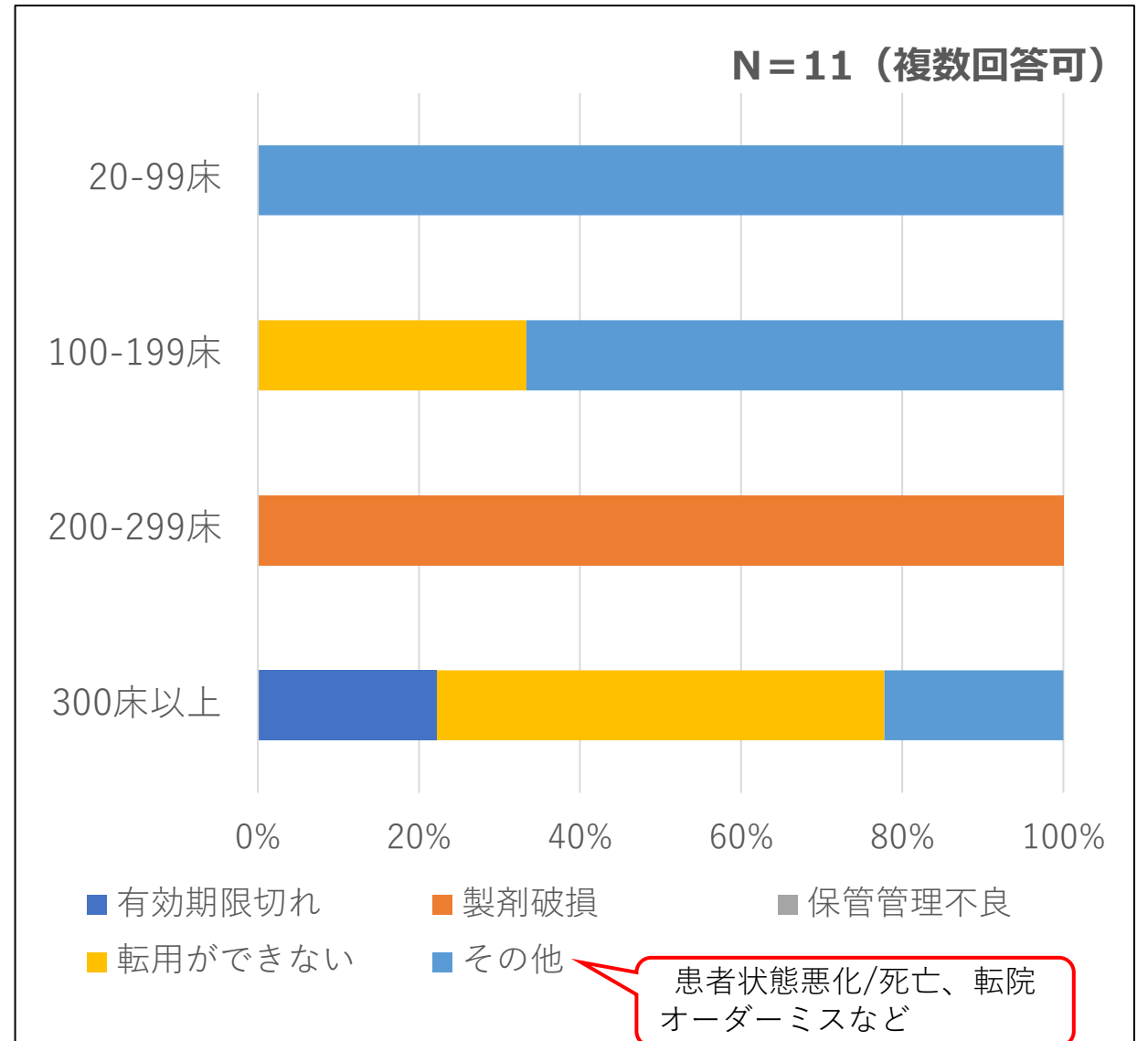
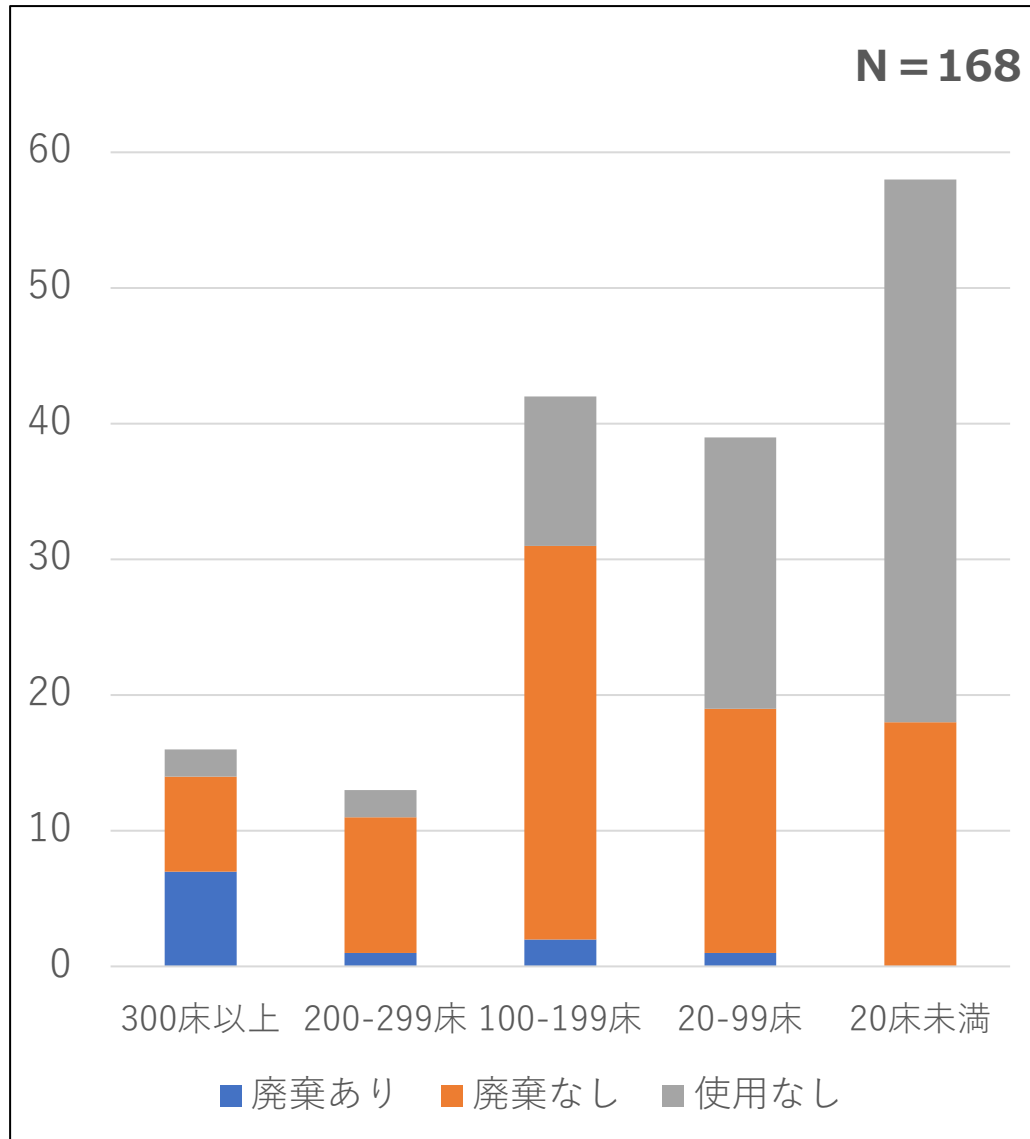
(施設数)



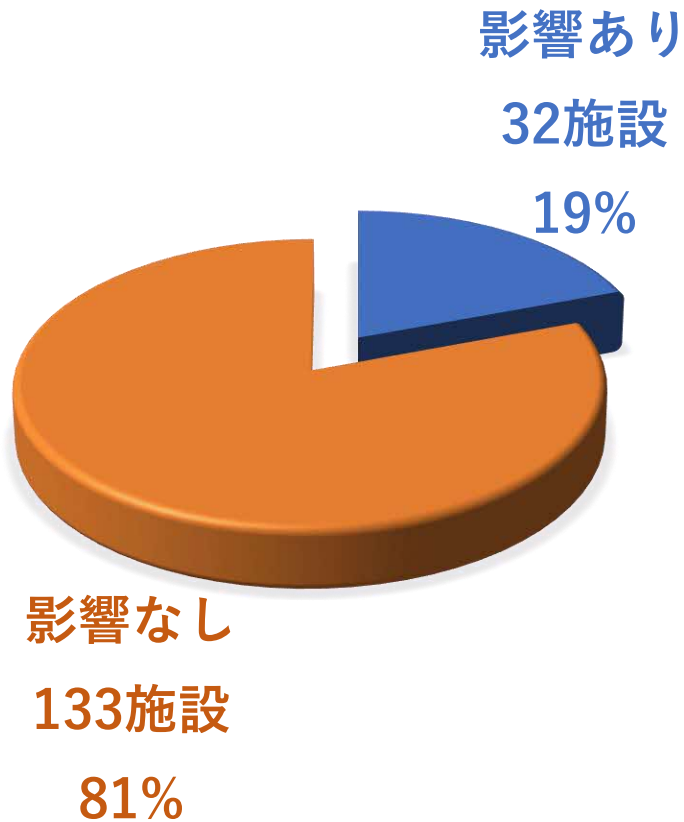
Q19:令和5年度血液製剤の廃棄について

Q19 (3) 血小板製剤

(施設数)



Q:赤血球製剤について有効期限延長
(採血後28日間)の影響あり(N=32)



期限切れ廃棄

減少：32施設

増加：なし

院内在庫数

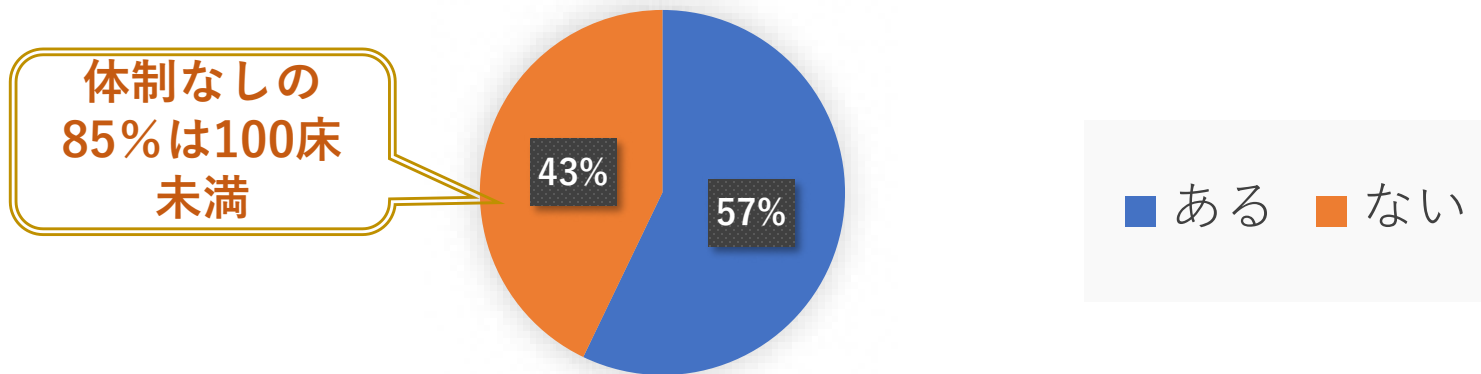
減少：9施設

増加：15施設

回答なし：8施設

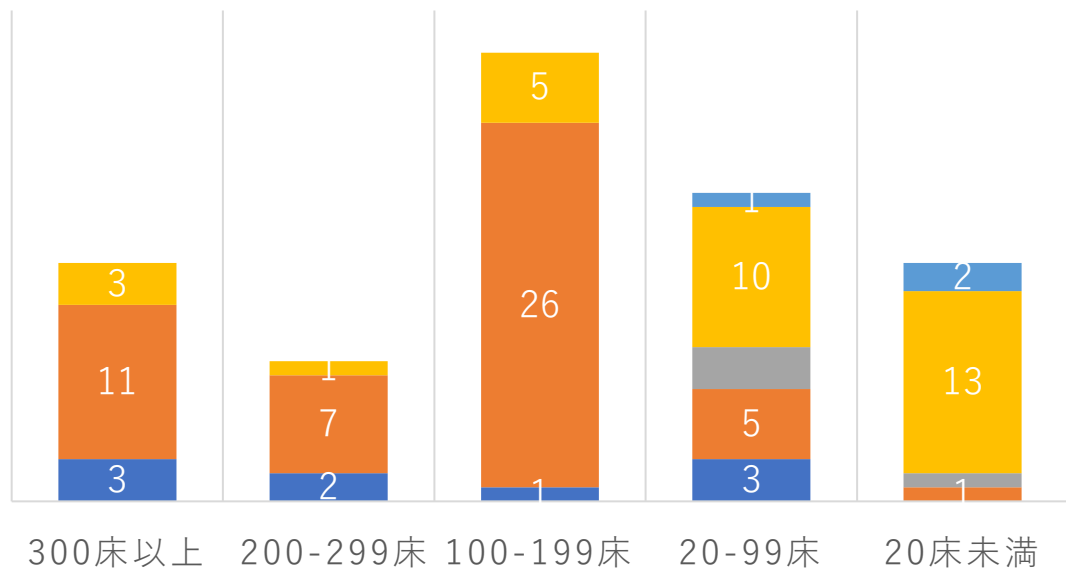
Q20:輸血副作用管理体制はありますか

N = 175



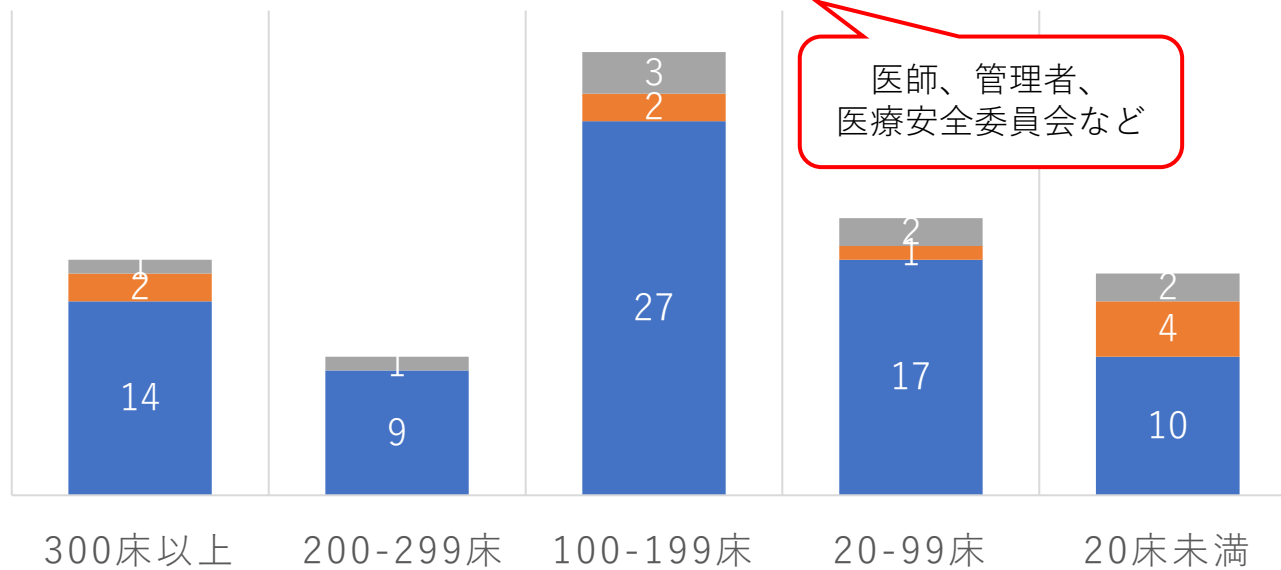
Q20:輸血副作用の管理部門 N = 98

■ 輸血部 ■ 検査部 ■ 薬剤部 ■ 看護部 ■ その他



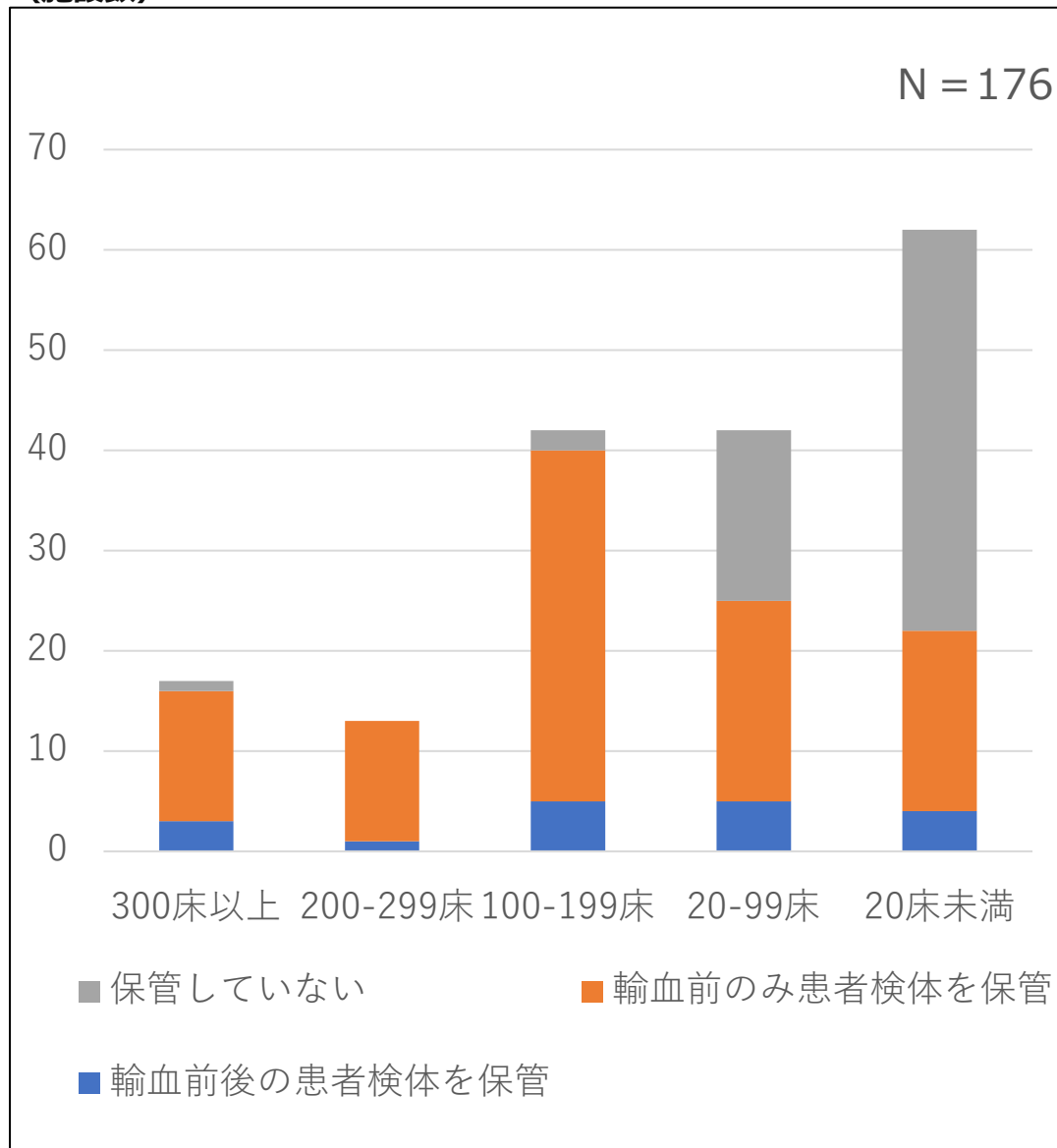
Q21:副作用を院内で報告しているか N = 95

■ 輸血療法委員会で報告 ■ その他の報告方法 ■ 報告していない



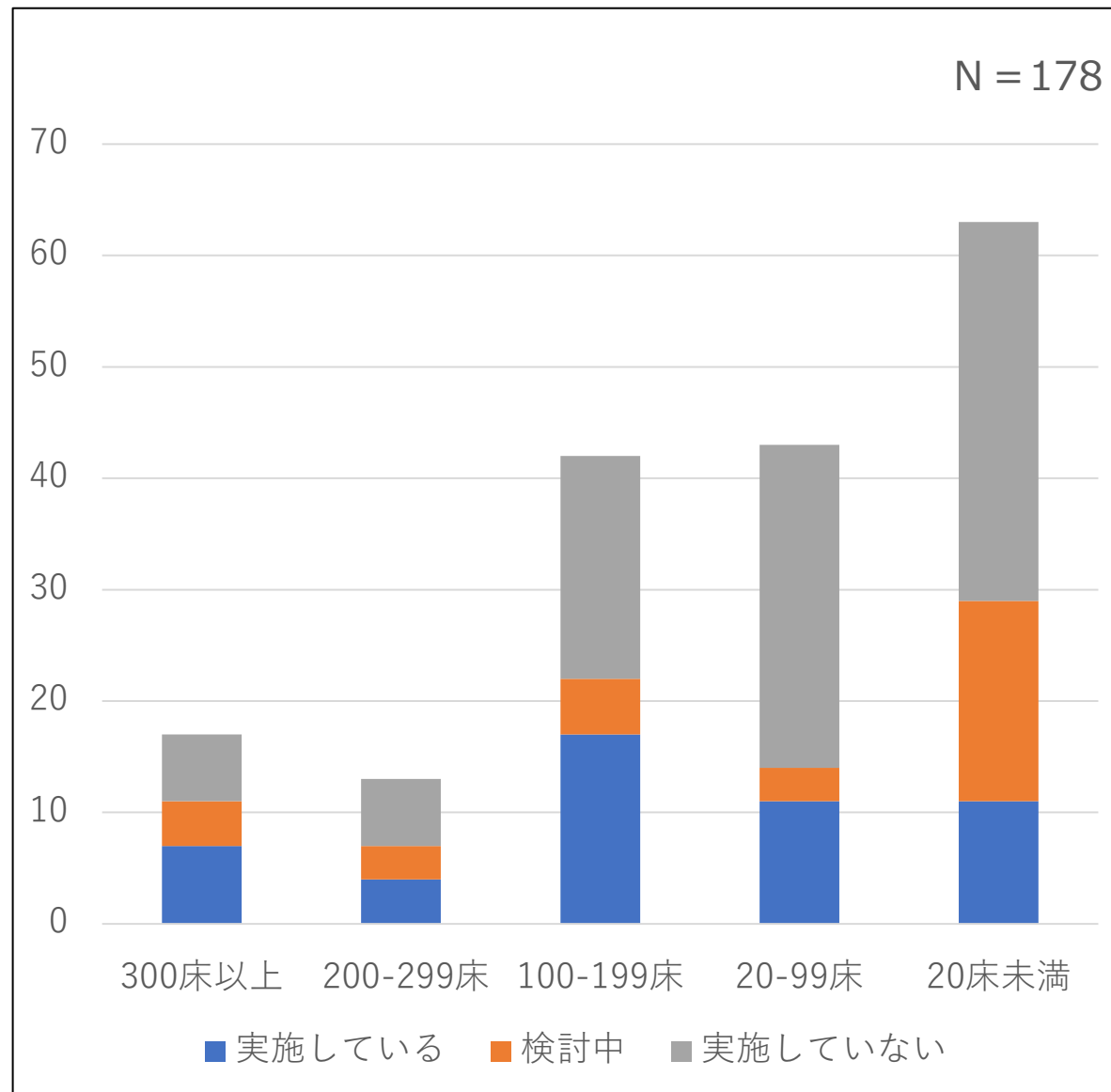
Q22:輸血患者の検体保管について

(施設数)

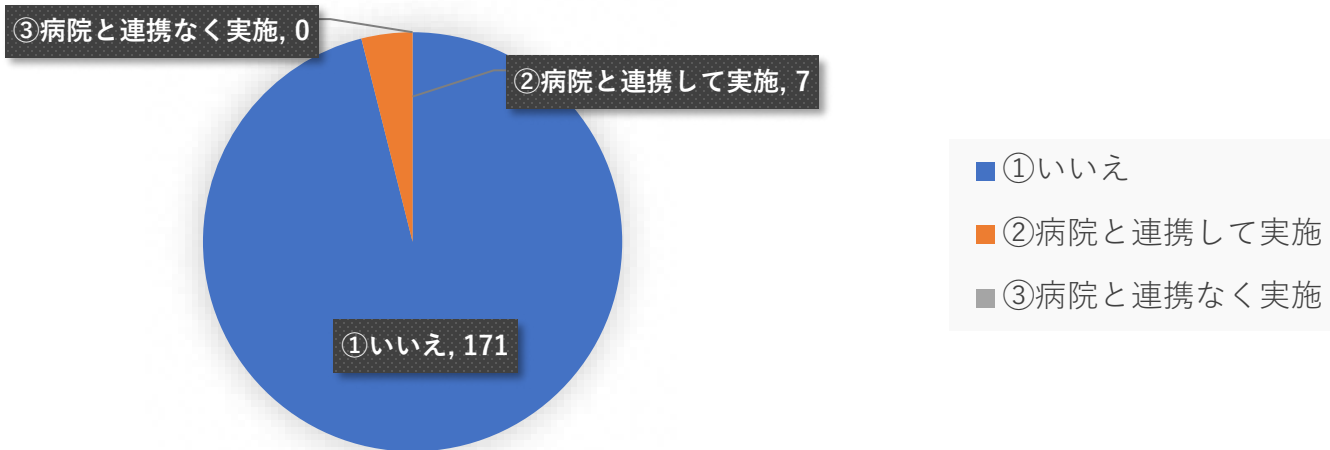


Q23: 使用済みバッグの冷蔵保存について

(施設数)

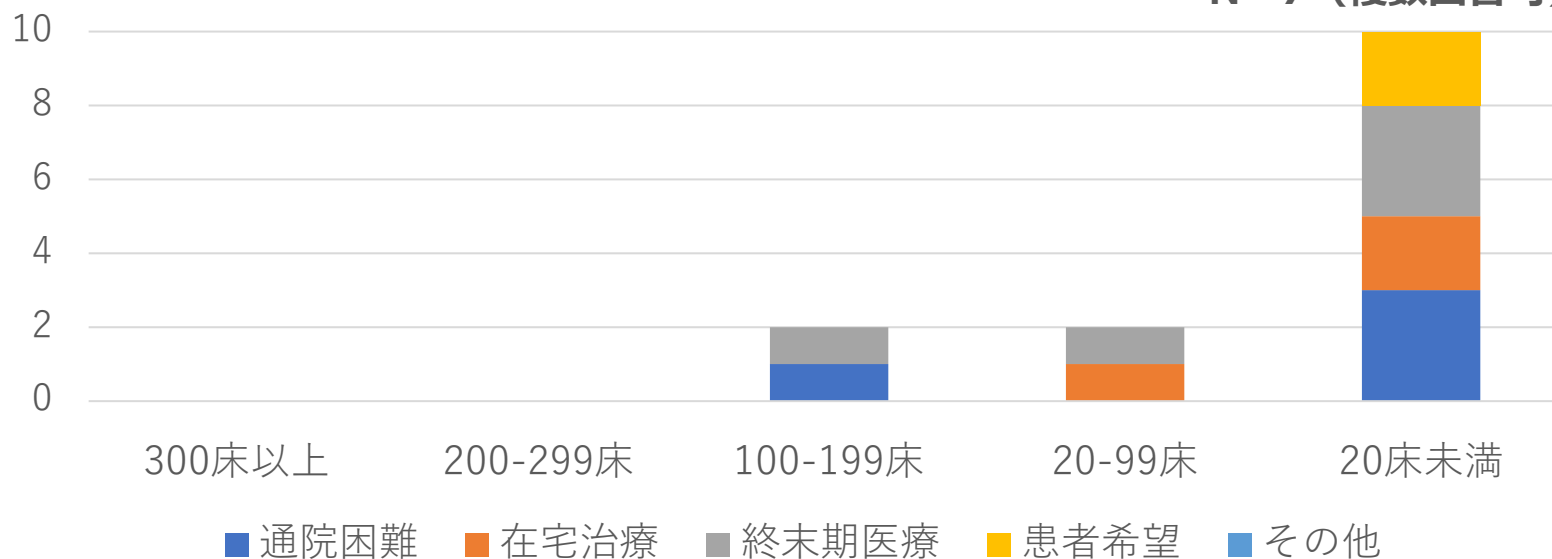


Q24:今までに病院外で輸血を行いましたか N = 178



病院外輸血実施施設数
 2024年：7施設
 2022年：5施設
 2020年：4施設

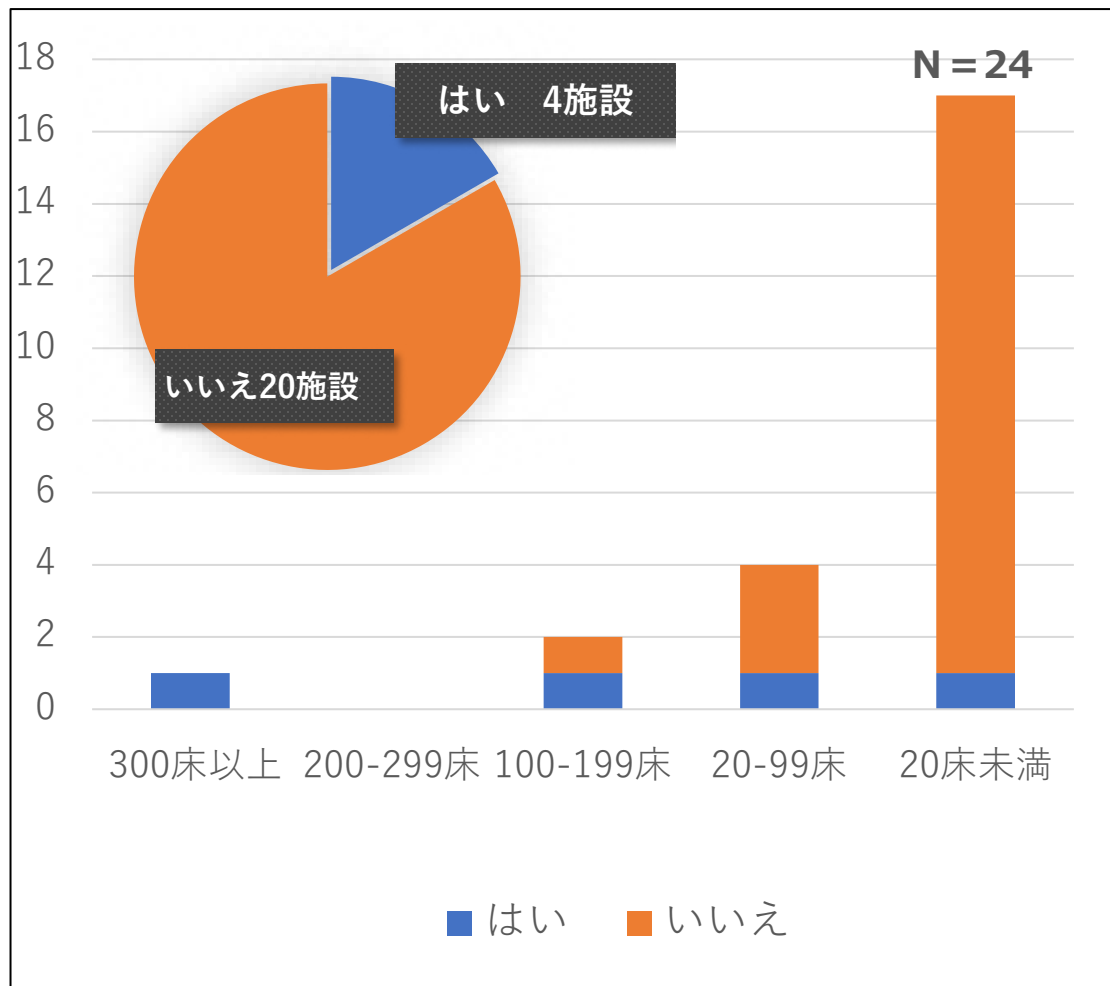
Q25:病院外で輸血を実施した特別な理由 N = 7 (複数回答可)



(通年継続して輸血用血液製剤を使用されていない施設)

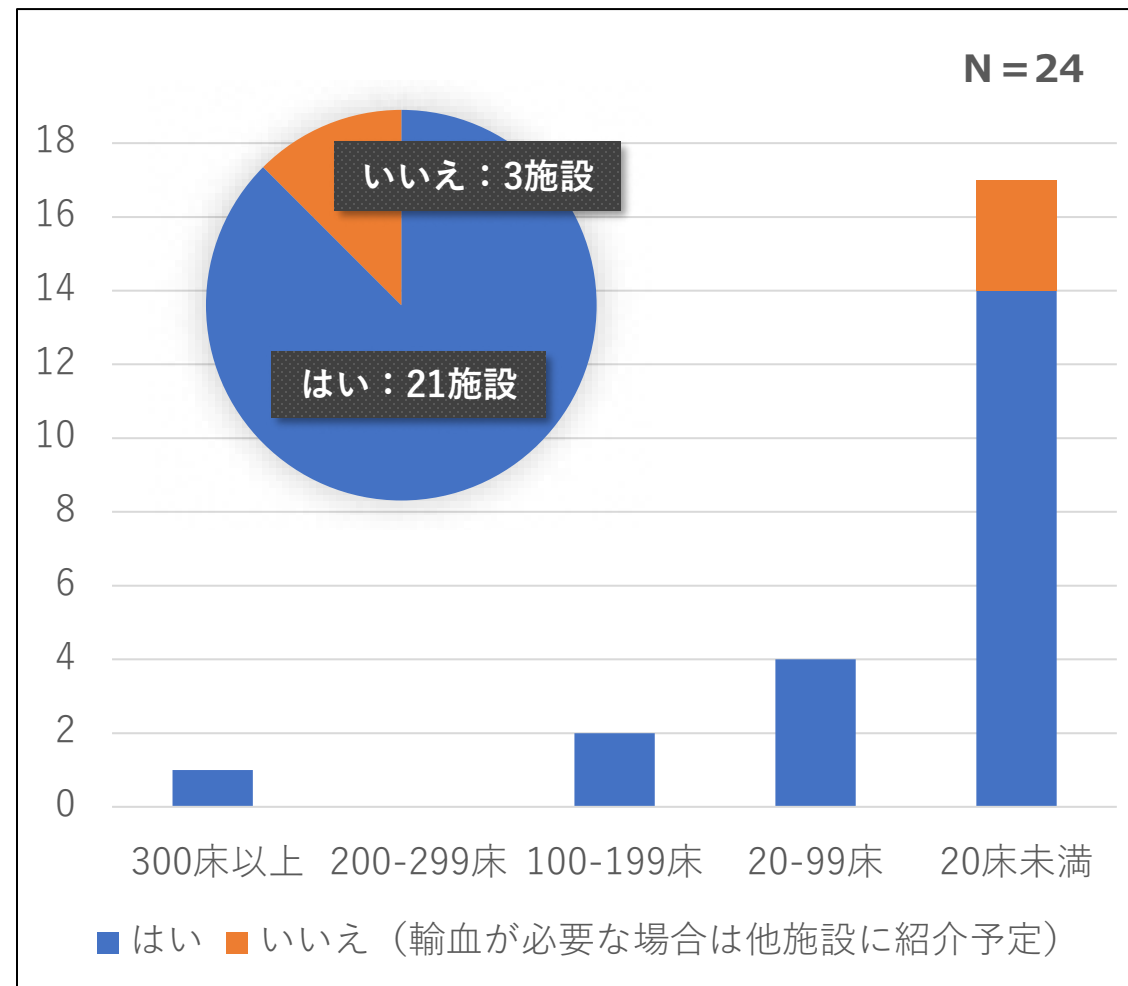
Q:26-1 熊本県合同輸血療法委員会講演会に参加されたことがありますか

(施設数)



Q:26-2 今後も貴院にて輸血医療を継続されますか

(施設数)



■ いいえ 輸血医療を継続されない施設：クリニック2、医院1